余白を大きくとってイメージを入れ紙面に強いインパクトを出す

01

余白部分をデザインすることで、インパクトを出したり
複数ページのイメージを統一化することができます。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5 Ps Photoshop CS5 CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

01 紙面のサイズを決めて、画像を配置し、マスクを作成します。

Illustratorで新規ファイルを作成し、[ファイル]メニュー→[配置]を選択します。[オブジェクト]メニュー→[重ね順]→[最背面へ]を選択します。紙面のサイズになる長方形を、[長方形ツール]で作成し、画像と長方形両方を選択して、⌘(Ctrl)+7でマスクを作成します。[オブジェクトツール]→[回転]→[180°]で反転させます 1 2。

02 通常より小さくした版面を作成しましょう。

[塗り]を[白]に設定し、[長方形ツール]で長方形を作成します。作成した長方形と、最初に設定した長方形を選択し、[整列]パネルで、[水平方向中央に配置][垂直方向中央に配置]をクリックして真ん中に設定します 3。

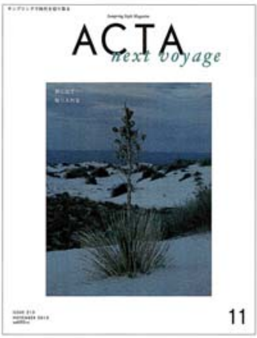
03 文字を版面の外側に配置します。

タイトル等の文字を[文字ツール]で作成し、配置します。版面の上のラインや、横のラインに揃えて配置することですっきりまとまります 4。

04 版面として設定した長方形内部に本文を配置して完成です。

長方形を選択したら、⌘(Ctrl)+C、⌘(Ctrl)+Fで同位置に複製します。⌘(Ctrl)+Kを押して、[環境設定]ダイアログの[一般で]、[キー入力:10mm]としてから、版面のラインを[ダイレクト選択ツール]で選択し、矢印キーを押して、内側に10mm小さくします。同様にして内側に10mm小さい長方形を作ったら、⌘(Ctrl)+5でガイドにします。余白部分が写真や文字でうるさいので、版面部分の余白は大きめにとっています。ガイドに沿って写真や本文を配置したら、完成です 5。

FIN



余白を活用して上品なデザインに仕上げる

02

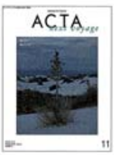
雑誌の表紙風デザインを仕上げていきます。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

適切な余白を入れる

余白のとり方で、デザインの印象はまったく変わります。デザイン初心者は余白を恐れて、意味なく情報をいっぱいに収めてしまうことがあるようですが、デザインの目的を考えながら、適切な余白をとっていくと洗練された強い印象を与えるデザインにすることができるでしょう。ただし余白のとり方は難易度が高いのでいろいろと試行錯誤し、検証していく作業が必要です。



01 デザインの用途から、デザイン面を考えます。

今回は雑誌の表紙デザインという想定です。まずは中心となる写真をレイアウトする領域を決めます 1。この領域は、デザイン面から発想したものではなく、2 のように雑誌を両手で持ったときに、隠れない範囲を元に決めました。デザインする対象がどういう風に使われるものなのかという点から発想することも大切です。

02 タイトルを入れていきます。

雑誌のタイトルを考える際には、書店やコンビニエンスストアで陳列される場合のことも考えねばなりません。本が重なる棚でも、きちんと見えるよう、上方に寄せてレイアウトすることが必要です 3。今回のタイトルのフォントは「MOGRomajiA Medium」、サブタイトルは、「Hoefler Text Italic」を使用しています。

03 写真を入れてみましょう。

今回は「上品なレイアウト」を目指しています。周りの余白をうまく使って目立たせることを目指しました。[ファイル]メニュー→[配置]で画像を選択し、[リンク]にチェックを入れて、写真データを配置しましょう 4。

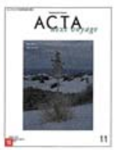
04 コピーをレイアウトします。

[中ゴシックBBB][10pt]でキャッチフレーズを入力します 5。考え方はタイトルと同じで、陳列時に見えやすいような配置をします。視線の移動する方向を考えると、タイトルよりも左手にあるほうがよいでしょう。他の必要情報も入力し、レイアウトしています 6 7 8。

05 バランスを確認し、余白を決めていきます。

写真の横幅を少し狭め、メリハリをつけることにしました。写真画像上で[長方形ツール]で、小さくしたい形状を作ります。写真画像と作成した長方形を選択して、[オブジェクトツール]→[クリッピングマスク]→[作成]で、適切な画像サイズにしてみました。修正前の 9 と、修正後の 10 では、写真の両サイドの余白が異なるだけですが、印象が変わっています。最適な余白のバランスを見つけましょう。

FIN



「整列」することで見やすくする　03

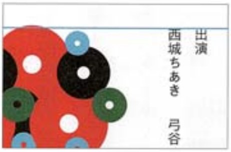
雑然としたまとまりのないフライヤーの問題点を探り修正をします。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

見やすい情報とは

「情報を見やすくする」ためには、情報をよく整理するという基本に則ってレイアウトすることが重要です。ただし、印刷物の場合は、実際に印刷してみて印象をチェックすることを忘れてはいけません。図のように、少しずれていたほうが、収まりがいい場合もあるのです。



01 要素が揃っているか確認しましょう。

1 のようなデザインのフライヤー。タイトルや出演者情報、開催日時など、項目がきちんと分けられ、優先順位もしっかりとついているのですが、どこか気持ち悪い印象が残ります。そういった場合には、ガイドラインを引いてみるといいでしょう。ガイドを引くには、[表示]メニュー→[定規]→[定規を表示]（⌘(Ctrl)+R）。目盛り部分でマウスをクリックしたまま、任意の位置までドラッグします。裁ち落としから内側15mmにガイドラインを引いてみると、ところどころラインと沿わない部分があることに気がつきました 2 3 4 5。デザイン的に意図したズレでない場合は、このラインに沿って要素を揃えることで見やすくなります。

02 ガイドに沿って揃えてみます。

では実際にガイドに沿ってレイアウトを調整します。まず、すべての要素をガイドに沿うように配置してみます 6。これだけでもだいぶスッキリしてまとまりのあるデザインになりました。

one point

オブジェクトを正確にガイドに吸着させたいときには、[表示]メニュー→[スマートガイド]と、[表示]メニュー→[ポイントにスナップ]、[表示]メニュー→[ガイド]→[ガイドをロック]にチェックをしておきましょう。

センター合わせと4分割の組み合わせで、英字新聞のようなデザインに仕上げる　04

紙の素材を使うことで、新聞のようなデザインにリアリティを出してみます。

APPLICATION: Ai Illustrator CS　Ps Photoshop CSS　CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

01 紙面のサイズを決めて、版面を作成します。

[長方形ツール]で、[幅:171mm 高さ:227mm]の長方形を作成します。⌘(Ctrl)+C、⌘(Ctrl)+Fで、同位置にコピーペーストします。⌘(Ctrl)+Kを押して、[環境設定]ダイアログの[一般]で、[キー入力:10mm]としてから、側面のラインを[ダイレクト選択ツール]で選択し、矢印キーを押して、内側に10mm小さくします。同操作を繰り返し、10mm小さい長方形を作ります。新聞のように大きめの余白ができました 1 2。

02 版面を4分割にしたガイドを作成しましょう。

[長方形ツール]で、図のような長方形を4つ作って、選択したら、⌘(Ctrl)+5でガイドにします 3。

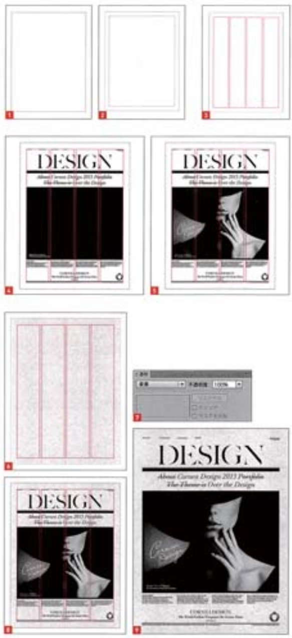
03 文字と罫線と写真を配置します。

英字新聞のようにしたいので、タイトル文字の下と、誌面の下部に、太さの違う罫線を[パスツール]で作成します。タイトルとリード文字は、センターに配置します。本文は、4分割のガイドに沿って、[文字ツール]を選択し、斜めにドラッグしてテキストボックスを作り、[文字]パネルで書式を設定したら、文字を入力します。テキストエリアの下にプラス記号(+)つきの小さいボックスが表示されるので、選択ツールでクリックし、次の段落に持っていくと、流し込むことができます。次に、[長方形ツール]で真ん中に大きく写真の枠を作成します。[オブジェクト]メニュー→[重ね順]→[最背面へ]を選択します。長方形と写真を両方選択し、⌘(Ctrl)+7でクリッピングマスクをかけます。今回は写真のまわりを黒の太い罫で囲ってみました 4 5。

04 紙の画像を配置して、マスクをかけて切り抜いたら完成です。

[ファイル]メニュー→[配置]で紙の画像を配置します。[長方形ツール]で紙面の形の長方形を作成し、長方形と紙画像を両方選択し、⌘(Ctrl)+7でクリッピングマスクをかけます。これを最背面に配置したら、[透明]パネルで、描画モードを[乗算]にします。[表示]メニュー→[ガイド]→[ガイドを消去]を選択し、ガイドを消去したら完成です 6 7 8 9。

FIN



05

ラインや枠線を使って情報を整理する

罫線や枠線によって、アクセントをつけつつ、情報を整理します。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

ラインを自在に使う

デザイン要素として欠かせないのが、罫線や枠線などのラインです。情報を整理して、見やすく区分けするだけでなく、シンプルな罫線であってもデザインにアクセントをつけることができます。太さの強弱によって、力強い印象を与えたり、上品な印象を与えたりすることもできます。

01 まず、Illustratorの画面に、元となる文字を入力します[1]。

この段階で、デザインのイメージに合ったフォントを選んでいます。今回はスッキリとした、上品な仕上がりを目標としているので、細めで、セリフなどのついていない、モダンなゴシック体フォント「Letter Gothic Std/ Bold」を選択しました。和文フォントは、「ZenOldMincho Regular-90pv-RKSJ-H」です。

02 続いてメインとなる「MOUNTAIN MONSTER」というバンド名の文字部分を検討します。

サイズや文字間を調整しながら決めていきます[2][3]。

03 ラインや枠をアクセントとして使いつつ、情報を整理していきます。

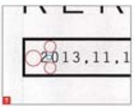
情報の優先順位を検討して、書体のサイズやラインの装飾などを決め、配置していきます[4]。配置を行う際に重要なのがガイドラインです。ガイドラインを引いて配置していくと作業の効率化を計ることができます。ガイドを引くには⌘(Ctrl)+Rで定規を表示し、目盛りからマウスドラッグです。任意のラインやオブジェクトを選択し⌘(Ctrl)+5を押すとガイドラインにすることができます[5]。

04 枠線で情報を目立たせていきましょう。

今回のフライヤーではリリースパーティの告知が一番の目的です。必要な要素が目立つように情報を組み替えていきます。「開催日時」「場所」「出演者」「チケット料金」といった情報を同じ重みにするために、同じように枠線で囲みました[6]。

05 文字には余白を残して配置します。

枠内の文字については可読性を考慮して余白を残すことが大事です。[7]のように、文字間と比べて周囲の余白が狭くならないようにすると可読性が確保されます。



06 できあがった文字を画像[8]の上に配置します。

色味の検討をしながら[9]、色味を調整すれば完成[10]です。

FIN

マルチカラーによるデザイン

大小ふたつの図形を複製し、にぎやかなイメージを作ります。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku

06

01 ポストカードサイズのフライヤーを作成します。

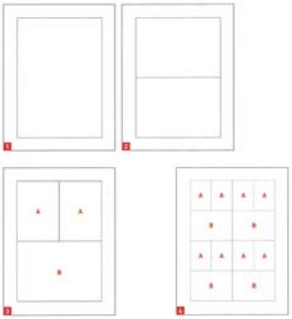
今回は、大小ふたつのデザインを利用し、マルチカラーで面を分割したデザインを採用することにしました。まず最初に［長方形ツール］で長方形を作ります。まず、全体の枠を作成し 1、［オブジェクト］メニュー→［パス］→［段組設定］で、［行］の［段数：2］、［間隔：0pt］にします 2。

02 さらに上の四角のみ横半分に分割します 3。

上半分の四角形を選択し、同様に［オブジェクト］メニュー→［パス］→［段組設定］で、［列］の［段数：2］、［間隔：0］にします。これがデザインの基本となります。ここでは便宜的に、小さなスペースを［A］、大きなスペースを［B］としています。

03 図形を複製します。

［拡大・縮小ツール］を使用して、工程02で作成した図形を50%に縮小して全部で4つになるよう複製し、4のように並べました。このA、Bのサイズを元にレイアウトをしていきます。



one point

正確にオブジェクト同士をスナップさせた図形を作るには、［表示］メニュー→［ガイドにスナップ］、［ポイントにスナップ］、［スマートガイド］にチェックを入れて作業します。波線を部分的に切るには、［はさみツール］を選択し、線の上でクリックします。

04 4のようなフライヤーを作成し、A、Bそれぞれのサイズに貼りつけていきます。

［HAPPY］のフォントは自作のもの、［Holiday］のフォントはフリーフォントの［Marketing Script］です。波線も作るには、［直線ツール］等で線を描き、選択したまま［効果］メニュー→［パスの変形］→［ジグザグ］で［ポイント：滑らかに］を選択すると作成できます。ジグザグのラインは、［ポイント：直線的に］で作成します。まずはベースの色を塗、要素はすべて白抜きとしました 5。

基本ルール

マルチカラー

マルチカラーとは、3色以上が同時に使われる多色配色のことです。明快なコントラストをつけることができ、純色に近い赤系、黄色系、緑系、青系等、多くの色相を使うと、軽快や明るさ、楽しさを表現することができます。一方で彩度や明度を調整することで和風やエスニック系など落ち着いたイメージにもできます。マルチカラーが活きる構成をよく検討することが大切です。

マルチカラーの例

05 フライヤーを並べていきます。

まずAを横に並べて 7 それぞれの色を検討します。似た色が並んだりしないように配置して並べます 8。同様に次を並べていきます 9。できあがった一組を複製して、下に並べます 10。これで、マルチカラーで紙面を埋めることができました。

06 最後に、色彩にリズムをつけるために、色や向きをシャッフルします 11。

青とオレンジ、ピンクと黄緑、黄色と緑といった補色を隣り合わせにすることで、強いコントラストが生まれ、躍動感を出すことができました。

FIN

07

売り出しセール情報のバナーデザイン

売り出し、セール情報を訴求するバナーをデザインします。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

金赤を使って目立たせる

「金赤」とは、印刷用語でマゼンタとイエローいずれも100%（M100Y100）に指定した、鮮やかな赤色のことです。チラシや雑誌のタイトルなど特に目立たせたい場合に使います。赤、オレンジ、黄色などの暖色系は、誘目性が高い（人間の注意を引く）色です。

01　1の情報を、目を引く形にデザインしたいと思います。

作業を始める前に、まずは情報に優先順位をつけます2。この順位は、キャンペーンの趣旨など、その狙いによって大きく変わりますのでよく吟味してください。文字の優先順位を重視し、太いゴシック体を用いて組んでみました3。このようなデザインが求められる場合もありますが、今回はもう少しおしゃれなイメージにしていきます。

02　メインとなる「SALE」のデザインを検討し、書体や文字間など調整してイメージを固めます。

今回は4のような、細めのゴシック体（モリサワ「学参数文書体 ローマ字」）を選びました。文字間を空けて配置することにします。字間をアキ気味に配置すると上品で落ち着いた印象になります。

03　次に「50%-70%OFF!!」を同じ書体で組みました。

「%」については文字サイズを縮小し、さらにベースラインを下げています。相対的に数字のサイズを大きくすることで、目立たせるのが狙いです5。ここで注意しなければならないのは「SALE」と「50%-70%OFF!!」が、同じ書体ウエイトであるにもかかわらず、文字の太さに差があることです。書体のサイズの違いがその理由なのですが、このままではバランスがよくないので、より太いウエイトを選択するか、線の幅を太く設定して、書体を太らせます67。

04　さらに、「SALE」と「50%-70%OFF!!」を強調していきます。

［直線ツール］でラインを上下に引きました8。ここまで制作したものを白色にし、金赤の円に配置します。金赤とはやや黄みがかった鮮やかな赤色のことで、マゼンタとイエローをそれぞれ100%混ぜたもののことです（M：100 Y：100）。なおバナー的な広告として、「>」を矢印としてあしらい、「OUTLET」の文字を加えて仕上げました9。

05　もう一案、線文字で日本語を加えたものも作ります。

まずはメインの訴求ポイントである「決算セール」のデザインを決め、そのうえで全体の雰囲気を決めます。メインの日本語部分は、［アピアランス］パネルで10、線文字にしました11。

06　ラインを加えて強調し、全体を斜めに傾けて完成です。

書体にスッキリとしたものを選んだので、上下にラインで挟むことで強調します12。要素を配置したら、最後に全体を選択して回転させ、文字の端が少し切れるように拡大をして完成です13。

FIN

one point

文字が切れるように配置したデザインは、動きが出て、勢いや活動的な印象をアップさせることができます。

08

ネオン効果で夜のイメージのタイトルを作る

ネオンのような夜のイメージのポスターを作成してみましょう。応用すればファンタジックなイメージにもできます。

APPLICATION: Illustrator CS5　Photoshop CS5　CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

夜のイメージを作る

都会の夜のイメージで、ネオンのような効果を作ってみましょう。IllustratorとPhotoshopを使って、文字やオブジェクトが発光している様子を出していきます。今回は背面や装飾効果にも配慮して、ネオン文字に合うデザインを考えていきます。

01　ネオンのように発光している文字を作っていきます。

Illustratorの［文字ツール］を使って、文字を入力していきます。あまり細い文字ではなく、ボールドの文字を選択しておいたほうが、立体的な効果が出しやすいです1。

02　文字の角を丸くして、ネオン管のようにします。

［書式］メニュー→［アウトラインを作成］、［効果］メニュー→［スタイライズ］→［角を丸く］にて［半径：0.5mm］にします。このとき［プレビュー］にチェックをつけて、確認してみるとよいでしょう23。

03　［ネオン光彩］効果をかけます。

文字を選択し、［効果］メニュー→［アーティスティック］→［ネオン光彩］。ネオンのような光った効果が得られます4567。

04　ここからはスポットライトを作成していきましょう。まずは背景のベースを作ります。

Illustratorで、背景に、濃紺からブラックのグラデーションを用意します。この際のブラックにはC+Mを足して黒に深みを出します8。Kだけでなく、CMYKすべてを使った黒は、リッチブラックといわれ、深みのある色を出すことができます。ただしCMYKすべて100%の総ベタといわれる黒は、インキの乾きに時間がかかるなど、［C：40 M：40 Y：40 K：100］等で作成したほうがよい場合もあります。

05　［パスツール］等を使って、スポットライトや光ボケのオブジェクトを作成します。

スポットライトやキラキラは、［パスツール］、光ボケは［ブラシツール］で描きます。Photoshopの［レイヤー］パネルで［描画モード：スクリーン］にすると、光の効果が出ます。同アイテムの中でも、ぼかしたり透明化で合成したりと、集合体の中のすべてを同じ処理にせず、若干の色の濃さを調整しておくことがポイントです。この処理で奥行き感が出て立体的になります9101112131415。

one point

スポットライトには、白から若干の色味を足したグラデーションを施しておくと、光が際立ってきます。

06　レイアウトして完成です。

スポットライトのラインは天地に向かって照らすように、センターから光が当たっているように配置します。輝く要素も加えて、ブロードウェイミュージカルなどのポスターのイメージの雰囲気になりました16。

07　背景色を変えただけで、雰囲気がまた変わって見えます。

背景色のカラーを変更しただけで、ファンタジックなイメージに変えることができました17。

FIN

01 紙面のサイズを決めて、版面を作成します。

[長方形ツール] で長方形を作成し、[⌘]+[D]+[C]、[⌘]+[Shift]+[V] でコピーペーストし、[編集] メニュー→[環境設定]→[一般] で、[キー入力：6mm] に設定します。[ダイレクト選択ツール] で、側面と天地のライン部をひとつずつ選択し、矢印キーを押して、内側に6mm小さくします 1 2。

02 さらに内側に4mm小さくした長方形を作成し、その中にグリッドを作成します。

6mm小さくした長方形を選択し、1 と同様にコピーペーストします。[⌘]+[Shift]+[V] 環境設定ダイアログで [キー入力：1mm] に設定し、2 同様に内側に4mm小さくします 3。

one point

オブジェクトは、キーボードの [矢印キー] で移動することができます。環境設定の [キー入力] で指定した値の間隔でオブジェクトを移動できます。[Shift]+矢印キーを押すと、その値の10倍の値で移動させることができます。[Ctrl]+[F] でペーストすると、同位置にペーストされませんが、[Ctrl]+[F] (前面にコピー) にすると、同じ位置にコピーすることができます。

03 縦線、横線を引きます。

[ペンツール] で4mm小さくした長方形の中に縦線を引きます。引いた縦線を 1 と同様に同じ位置にコピーペーストしたら、環境設定ダイアログで [キー入力：1mm] に設定し、矢印キーを連押して、1mm横にずらします。この2本を選択し、[オブジェクト]→[グループ化] でグループ化します。同様のように配置します。横線も同じく、1mm間隔の線を均等に並べたら、グリッドの完成です 4。

04 背景を作成します。

紙の画像を用意し、Illustratorの [ファイル] メニュー→[配置] で配置します。紙の画像を選択し、[オブジェクト] メニュー→[重ね順]→[最背面へ] で一番後ろに持っていき、紙の画像と、6mm小さくした長方形を選択したら、[オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[作成] をクリックすると、長方形の大きさに、紙の画像がマスクされました 5。

one point

マスクをかける手順は、紙画像の上に、切り抜きたい形状を配置、両方選択して、[⌘]+[Ctrl]+[7] です。

05 グリッドに沿って写真を配置しましょう。

工程03と同様に、写真を配置し、グリッドにそった長方形を作成し、クリッピングマスクを作成します。何枚かはグリッドからずらして配置しましょう 6。

09

06 グリッドに沿って文字を配置しましょう。

大小メリハリをつけた文字をグリッドに沿って配置していきます。写真の上に、赤い数字を載せ、[透明] パネルで [乗算] にし、硬くなりがちなグリッドデザインに動きを出します 1。

07 全体に黄色い写真をかぶせることで、一体感を得たせて完成です。

Photoshopで山の画像を開きます 1。この画像は、グレースケールだったので、[イメージ] メニュー→[モード]→[RGBカラー] に変更します。[レイヤー] メニュー→[新規] で新規レイヤーを作成したら、[描画色] を黄色にして [塗りつぶしツール] で画面をクリックし、塗りつぶします 2。次に [レイヤー] パネルの描画モードを [スクリーン] にし、黄色の画像にします 3。いったん保存したら、Illustratorに戻り、[ファイル] メニュー→[配置] で配置します。紙面の形にマスクしてから、[透明] パネルで、[乗算] にします。グリッドを消さし、完成です 4 5 6。

FIN

ジャンプ率を効果的に使って視線を誘導する広告

10

見出しと本文の大きさにメリハリを持たせて、効果的な視線誘導を狙います。

APPLICATION: Ai Illustrator CS4 CREATOR: Toshiyuki Takahashi [Graphic Arts Unit]
使用素材: Ushico / PIXTA [ピクスタ] http://pixta.jp/photo/2272299

基本ルール

ジャンプ率について

本文の文字サイズと見出しの文字サイズの比率をジャンプ率と呼び、この比率によって、デザインから受ける印象や視線の流れをコントロールすることができます。ジャンプ率が大きい（大きさの差がある）ものは、ダイナミックな印象になると同時に、タイトルから本文という視線の流れがより明確になります。逆に、ジャンプ率が小さいものは、自然で落ち着いたミニマルな印象になります。

低いジャンプ率　高いジャンプ率

01 タイトルに使うフォントを選定します。

今回のデザインは、タイトル文字を大きく扱うためフォントから受ける印象が大きくなります。まずはフォント選びから始めましょう。Illustratorを起動し、新規書類を作成して［文字ツール］で「夢の道を歩き始めよう。」という文字を作成し、異なるフォントを設定して印象を比較します。ここでは、ほどほどの力強さがありつつ無骨な印象にならないように［A1明朝 Std Bold］を選択しました 1。

02 レイアウトのベースを作成します。

［ファイル］メニュー→［新規...］を選択し、［プリセット：プリント］に設定したあと［方向：横］に変更して新規書類を作成します 2。［ファイル］メニュー→［配置...］を選択して人物と空の写真を配置し 3、アートワークの中央に揃えます 4。

03 リードコピーを作成します。

リードコピーの文字を［文字ツール］で作成し、人物左のスペースに配置します。文字の色は白にしました。文字の設定は［フォント：リュウミン Pro R-KL］［サイズ：13pt］［行送り：21pt］［トラッキング：75］です 5 6。

04 タイトル文字を配置してジャンプ率を検討します。

最初に作成したタイトル文字をコピーペーストしてリードコピーの上に配置し 7、文字の色を白に変更します 8。今回、このタイトル文字はデザインの要になるので、カーニングを手動で調節して細かいバランスに配置しましょう 9。カーニングは少し詰め気味にして力強さを強調します。このタイトル文字を拡大、縮小させながら 10 11、リードコピーとのバランスを検討します。今回は［サイズ：108pt］［行送り：111pt］としました 12。

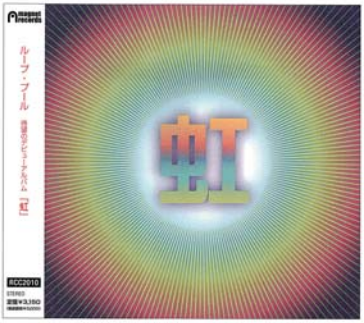
05 タイトルにアクセントの文字を加えます。

［文字（縦）ツール］で「今から」という文字を入力します。［フォント：新ゴ Pro M］［サイズ：26pt］としました 13 14。さらに、［ペンツール］を使って、この文字の左に斜めのパスを作成し、［線色：白］［線幅：3.6pt］［線端：丸形線端］にします 15。このパスを選択したまま［リフレクトツール］をダブルクリックするとダイアログボックスが出るので、［リフレクトの軸：垂直］を選び［コピー］をクリックし、左右対称になるように移動させます 16 17 18。文字とこれらのパスを選択し、［回転ツール］をダブルクリックして［角度：−30°］で回転させます 19 20。タイトル文字の右上に配置します 21。

06 残りの要素を配置して完成させます。

左下に詳細内容や連絡先などの文字を配置すれば完成です 22。大きなタイトルがキャッチとしての役割を十分に発揮しています。また、大きなジャンプ率が効果的に働き、タイトルからリードコピーへの視線が自然に流れるデザインとなりました。

FIN



スターツールとグラデーションで作る シンメトリックなデザイン

11

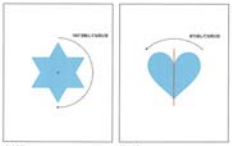
Illustratorのスターツールを使って描いた形に絶妙なグラデーションを駆使し、シンメトリックで求心力あるCDのデザインを作ってみましょう。

APPLICATION: Illustrator CS4　CREATOR: Shingo Suzuki [magnet design]

基本ルール

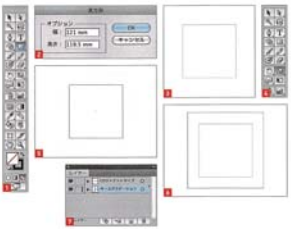
シンメトリーを利用する

シンメトリーな図形にはヘキサグラム（六芒星）のように中心点を軸に180°回転しても同じシルエットになる点対称のものと、ハートのように1本の線を軸として折り返しても同じシルエットになる線対称のものがあります。シンメトリーな図形はどっしりとした厳格な印象を与えるので、企業のマーク や国旗などに多く使われるコンポジションです。アシンメトリーな図形とは対照的に、動きのない退屈なイメージを与えることもありますが、その反面ともても象徴的で強い求心力もあります。



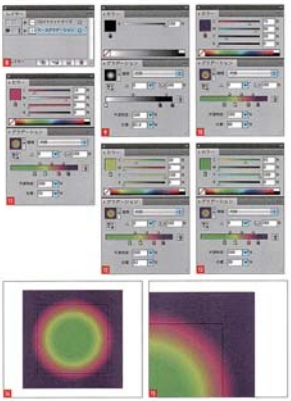
01 CDジャケットの矩形を描きましょう。

正確なサイズを描くには［ツール］パネルから［長方形ツール］を選び、画面上でクリックすると［長方形ダイアログ］が表示されるので［幅：121mm、高さ：119.5mm］と入力し［OK］を押します 1 2 3 。さらに開いた矩形を選択した状態で、［Shift］キーと［Option（Alt）］キーを押しながら［拡大・縮小ツール］でドラッグし一回り大きい矩形をコピーします 4 5 6 。コピーした矩形は元のレイヤーの下に新たにレイヤー（作例ではベースグラデーション）を作成し移動しておきます 7 。



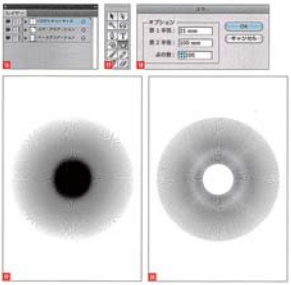
02 グラデーションを施していきます。

作業をやりやすいように、初めに描いた矩形のレイヤー（作例ではCDジャケットサイズ）を［レイヤー］パネルの目のアイコンをクリックして表示にしておきます 1 。一回り大きく描いた矩形を選択して［グラデーション］パネルの種類で［放射状グラデーション］を選びます 2 。色の設定は［グラデーション］パネルの［グラデーション］スライダ下部にある白や黒のマークをクリックして［カラー］パネルで操作します。［スウォッチ］パネルから任意の色を白や黒のマークにドラッグ&ドロップすることもできます。色を見やすくには［Option（Alt）］キーを押しながらマークをスライドさせます。キャプチャー画像を参考にしながらグラデーションを施していきましょう 3 4 5 6 。一回り大きな矩形にしたのは、ジャケットのスミきさトリミングしたときに両端までグラデーションを行き渡らせるためです 7 8 。



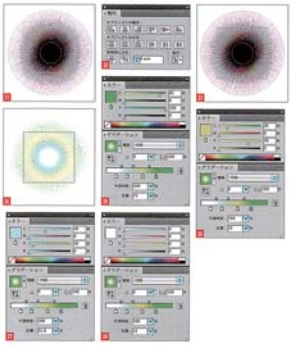
03 光る太陽のような図形を描いていきましょう。

次に新しいレイヤー（作例ではスターグラデーション）を［ベースグラデーションレイヤー］の上の階層に作成します 1 。このレイヤーより［ツール］パネルから［スターツール］を選択して、画面の上でクリックし［スターダイアログ］を表示させます。オプションに［第1半径：25mm、第2半径：100mm、点の数：200］と入力してOKを押します 2 3 。［スターツール］は星形を描くツールですが、このように点の数を極端に多くすることで太陽がぱったような図形を描くこともできます 4 5 。



04 描いた図形はCDジャケットの矩形の中心に配置しましょう。

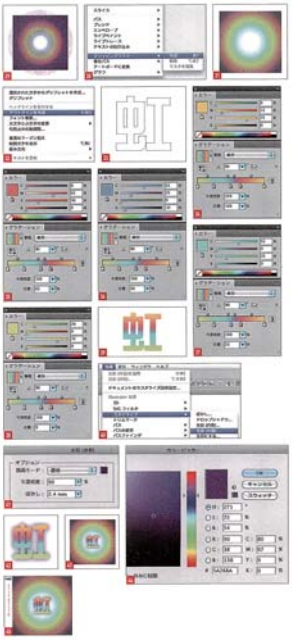
両方のオブジェクトを選択したまま、再びCDジャケットの矩形をクリックしキーとなるオブジェクトとします（キーオブジェクトは強調表示されます 1 ）。［整列］パネルで［水平方向中央に配列］と［垂直方向中央に配列］をクリックすれば CDジャケットの矩形の中心に移動します 2 3 。このスター型の図形にもう段 02 と同じ要領で、キャプチャー画像を参考にしながらグラデーションを施していきましょう 4 5 6 7 。



05 トリミング、彩色して完成です。

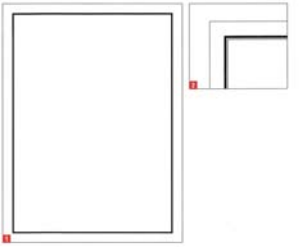
［ベースグラデーション］［スターグラデーション］［CDジャケットサイズ］の各レイヤーのオブジェクトをすべて選択したら、［オブジェクトメニュー］→［クリッピングマスク］→［作成］で、CDジャケットのスミきさトリミングします 1 2 3 。CDジャケットの中央にアルバムのタイトル名「虹」と入力し、アウトライン化したあとに［線状グラデーション］で彩色します 4 5 6 7 8 9 。さらにタイトルを浮き上がらせるために、［効果メニュー］→［スタイライズ］→［光彩（外側）…］をキャプチャー画像を参考に施しましょう。CDジャケットの表紙が出来あがり、完成です 10 11 12 13 14 。

FIN



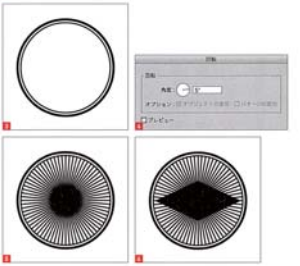
01 紙面のサイズを決めて、版面を作成していきます。

[ファイル] メニュー→[新規] でA4のファイルを作成します。[長方形ツール] を選び、ファイル上でクリックして、ダイアログで [幅：172mm] [高さ：228mm] と入力して長方形を作成します。[command]+[option]+[D]、[command]+[option]+[T] で同位置に複製します。[command]+[option]+[d] で環境設定ダイアログを開き、[一般] [キー入力：10mm] に設定します。[ダイレクト選択ツール] で、側面のラインをひとつ選び、矢印キーを押して内側に10mmかさくします。同様に天地左右が内側に10mm小さい長方形を作成します。外側の線を選択し、[線] パネルで、[4pt] にします。先ほどと同様の操作で同位置に複製し、[キー入力：1.5mm] に設定し、内側に1.5mm小さい長方形を作成します。内側の線は、[線] パネルで [線：1pt] にします。



02 円を回転させて放射線を描きましょう。

[楕円ツール] を選び、ファイル上でクリックして、ダイアログ上で [幅：62mm] [高さ：62mm] の円形を作成します。[command]+[option]+[D]、[command]+[option]+[T] で同位置に複製したら、[shift]+[option]+[alt] キーを押しながらマウスドラッグで一回り小さな円を描きます。円の中心から一回り小さい円まで、[直線ツール] で線を描きます。線が選択された状態で、[option]+[alt] キーをずっと押しながら、[回転ツール] をクリックすると、回転軸が動かせますので、円の中心に回転軸を移動させます。ダイアログボックスで、[回転：5°] [コピー：1] をクリックします。[command]+[option]+[F] で繰り返し、一周させます。最終版に、[長方形ツール] と [回転] などでひし形を作成し、配置します。



飾り罫やリボンをビジュアルのポイントに

12

写真やイラストなど、ビジュアル要素の少ない制作物の場合、
飾り罫やリボンをメインのビジュアルとして使ってみましょう。

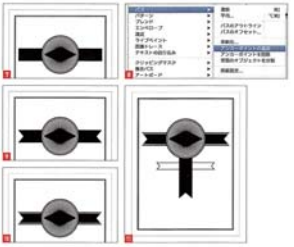
APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5 CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

one point

[表示]→[スマートガイド] と [ポイントにスナップ] にチェックが入っていると、円の中心などが正確にとりやすいです。

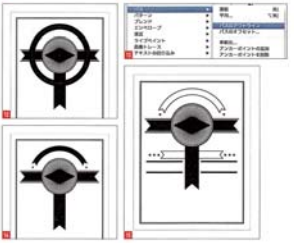
03 リボンを作成していきましょう。

[長方形ツール] を選び、ファイル上でクリックして [幅：140mm] [高さ：20mm] の長方形を作成し、[オブジェクト] メニュー→[パス]→[アンカーポイントの追加] で側面に追加されたパスを [ダイレクト選択ツール] で選択し、内側に移動させます。上下に [直線ツール] で線を引き、内側にさらにずらして、線の [塗り：白] にします。これを、回転、縮小、塗り反転等で、図のような配置にします。



04 曲線のリボンを作成しましょう。

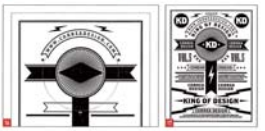
始めに作成した円を、[command]+[option]+[D]、[command]+[option]+[T] で同位置に複製したら、[shift]+[option]+[alt] キーを押しながらマウスドラッグで、大きな円を描きます。[線] パネルで太くしてから、[オブジェクト] メニュー→[パス]→[パスのアウトライン] でアウトライン化します。不要な部分を [消しゴムツール] または [パスファインダ] で削除し、側面の真ん中に、[オブジェクト]→[パス]→[アンカーポイントを追加] でパスを追加し、内側に移動させます。[塗り：白]、[線：黒] にします。

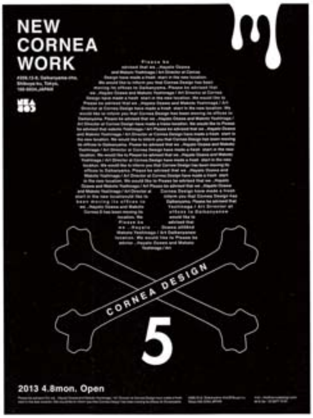


05 曲線のリボンに文字を配置し、その他の文字や要素を配置して完成です。

始めに作成した円を、工程04同様に、同位置に複製してから大きくします。[パス上文字ツール] を選択し、文字を入力します。星マークは、[スターツール] で作成、パラダンマークは、[スターツール] を選択し、ファイル上でクリック、[星半径] [第2半径] [点の数] を調整して作成することができます。その他の文字や図形も配置したら、完成です。

FIN





13

本文をビジュアル化した遊び心のある紙面

絵柄に文字を流し込むことで、イメージと情報の両方を同時に伝えることができます。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5 / Ps Photoshop CS5
CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

基本ルール　文字組みをビジュアル要素にする

自由なデザインが許される場合は、本文をただ流し込むのではなく、本文自体をビジュアル要素として扱うとおもしろい効果が得られます。作例のように図形に文字を流し込んでみると、オブジェクトとしてひと味違った存在感を出すことができるでしょう。今回は、形状の内側に本文を流し込んでいますが、逆に、形状の外側に本文を流し込み、本文の余白で形状を表すという手法もあります。

01 元となるビジュアルを作成します。

Illustratorを開き、[ファイル] メニュー→[新規] で新規ドキュメントを作成します。スカルの半分を [ペンツール] で描きます。[リフレクトツール] をダブルクリックし、ダイアログで [垂直][コピー] をクリックします。[選択ツール] で位置を調整します。ここにはあとで文字を流し込むので、複雑な図形ではなく、極力シンプルな形状にするといいでしょう。また、骨の部分も、同様に [リフレクト] を利用してシンプルな形に描きます。

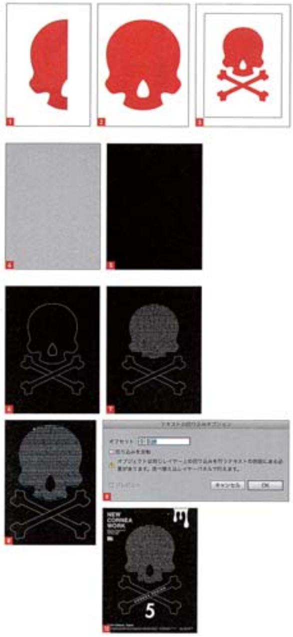
02 背景を作成します。

Photoshopを開き、[ファイル] メニュー→[新規] で、新規ファイルを作成します。紙の画像を用意し、[ファイル] メニュー→[配置] でファイルに配置します。[イメージ] メニュー→[色調補正]→[諧調の反転] で黒っぽい紙にします。

03 先ほど作成したイメージに文字を流し込んでいきましょう。

Illustratorに戻ります。[ファイル] メニュー→[配置] で黒い紙の画像を配置します。[オブジェクト] メニュー→[重ね順]→[最背面へ] で背景として配置します。スカルと骨のオブジェクトを、[塗り：なし][線：白] に変更します。スカルの周りの線を左右とも選択し、[パスファインダー] で [合体] させておきます。スカルの周りの線を選択したまま、本文の文章をコピーしたら、[エリア内文字ツール] を選択し、クリックして文字を流し込みます。文字を流し込んだスカルと骨を選択し、[オブジェクト] メニュー→[テキストの回り込み]→[テキストの回り込みオプション] で [オフセット：0pt] に設定すると、テキストと回り込み対象オブジェクトの間の余白がゼロになります。[オブジェクト] メニュー→[テキストの回り込み]→[作成] で、文字がスカルの形に作成されました。その他の要素を配置したら完成です。

FIN



14

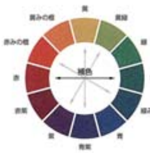
補色対比で見せるインパクトのあるレイアウト

色の特性である補色対比を使ってインパクトのあるレイアウトをしてみましょう。同じレイアウトでも選ぶ補色によって印象は大きく変わります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS4　CREATOR: Shingo Suzuki [magnet design]

基本ルール　補色

補色とは円周状に並べられた色相環上で180°反対側に位置する対照的な色のことです。この補色関係にある2色を組み合わせると彩度を高め合って、お互いの色をより強調することになります。性格の異なる2色の組み合わせは、派手で強烈なインパクトのある配色になります。図はPCCS色相環になります。色相環には「マンセル色相環」や「オストワルト色相環」などがあり、色相の分け方や色味が微妙に異なってきます。

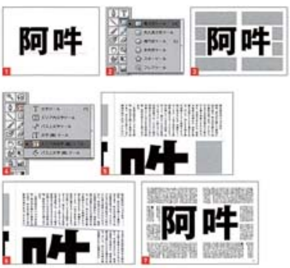


01 文字を入力していきます。

作例は雑誌の誌面を想定しているので [文字ツール] を使ってノドをまたいだ大見出しに「阿吽(あうん)」と入力します。補色対比のイメージと関連づけるため、左右が対になるように本文のテキストも入力しましょう。[長方形ツール] を使って長方形を作成し、レイアウトします。

02 テキストを流し込みます。

[エリア内文字 (縦) ツール] で長方形の右上角にカーソルを合わせ、クリックして、テキストを流し込みましょう。ボックスからテキストがあふれてしまうときは、テキストボックスの左下の方に赤い四角に＋のマークが表示されるので、[選択ツール] でそのマークをクリックしてから、連結させたい長方形の右上の角をクリックします。するとあふれていたテキストが次のテキストボックスへ流れ込みます。最後に段落の一字だけ大きくし雑誌の本文らしくします。



03 大見出しに当たる「阿吽」に大胆な補色で色をつけましょう。

今回はインパクトのある色彩とレイアウトを優先して、比較的に明度が近くハレーション効果の強い補色関係の赤と青緑を選びました。[カラー] パネルで、赤は [C：20% M：94% Y：69%]、青緑は [C：86% M：33% Y：58%] に設定します。大見出しに色をつけたらお互いの文字を際立たせるように、左右のページの補色にも交互に補色を配色しましょう。補色関係の組み合わせは他にもあるので、レイアウトの目的によって試してみるとよいでしょう。

04 本文にも色をつけて完成です。

本来であれば、本文のテキストには補色より明度差のある白や黒などを使用して可読性を重視しますが、今回の作例では思い切って本文にも同じ補色を使ってインパクトのある誌面を作ってみました。対照的な色彩とレイアウトでインパクトの強い印象的なデザインになっています。

FIN

15

明朝体とゴシック体を組み合わせたデザイン

明朝体とゴシック体、
異質なふたつを組み合わせて
キャッチーな見出しを作りましょう。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku
参考：「直観」『フリー百科事典　ウィキペディア日本語版』 2013年6月10日（月）14：05,
URL: http://ja.wikipedia.org

01 タイトル文字を部分的に強調します。

[1]のようなタイトルを見出しに使ったデザインをします。タイトル文としては長いため、能動的でない読者には届かない可能性があります。そこで、このタイトルの文章の中の大事な部分の書体を変えることで強調し、要点をひと目でわかるようにしたいと思います。文章をよく吟味しましょう。ここでは「難しい選択」「直感」「本能」「頼りになるのか」の部分を強調したいと思います。強調する部分は太いゴシック体に、その他は明朝体とします[2]。

02 「?!」記号を強調記号として利用します。

「?!」を選択し、[塗り]のカラーを[C:0 M:95 Y:20 K:0]、[線：なし]に変更します。書体を選択した状態にして、[ウィンドウ]メニュー→[透明]で開くパネルで、描画モードを[乗算]にして重ねます[3][4]。ここでは書体の色が黒なので変化はありませんが、あとで色を変更した際に効果が見えます。

03 文字を調整します。明朝体を太らせ、字間を少し詰めます。

この明朝体は少し細くてバランスが悪いので、[線幅]を設定して[5]少し太らせておきます[6][7]。太いウエイトがある書体についてはそれで対応してください。同時に文字詰めの調整も行いますが、明朝体とゴシック体が混在する場合の特殊事情として、明朝体の文字間は、ゴシック体に比べて間隔が開いて見えやすいということを覚えておきましょう。大事なのはリズム。自然な並びになるよう調整をしましょう[8][9]。

04 文字色を変更し、誌面レイアウトに収めて完成です。

全体の強弱を強調したい場合は色に変化をつける方法も有効です。ただし、差がつきすぎても読みにくいので、同系色でまとめるのがよいでしょう[10]。工程03で設定した、「乗算」の効果もここで活きてきます[11]。これで完成ですが、全体のレイアウトを進めた段階で再び確認するといいでしょう[12]。

FIN

基本ルール

書体を混在させる効果

タイトルや見出しなどが長くて読者にひと目で伝わりにくいことがあります。そのようなときには、大事な部分だけ書体を変えて強調すると効果的です。一般的にゴシック体は現代的で力強い印象を与えることができるので、強調したい部分に使うといいでしょう。ただし明朝体とゴシック体を組み合わせて使うと、明朝の字間は、ゴシック体に比べて間隔が開いて見えやすいので気をつけましょう。

16

文字を箱組みにしてスッキリとまとめる

そのまま見出しとして使える箱組みを
使って雑誌の章タイトルを作ります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku

01 メインタイトルとなる部分[1]をデザインしていきます。

書体や字間など、基本部分を決めていきます。[文字ツール]を選択し、文字要素をコピーしてから、斜めにドラッグして箱となるエリアを定義します。[文字]パネルで書体を選び、文字要素をペーストして入力します。今回は、四角の中にきっちり収める「箱組み」でどっしりと見せたいので、[2]のような比較的太い書体「ゴシックMB101」を選びました。

02 文字間隔を整え、両端を揃えていきます[3]。

中央の「・」の隣に間隔ができるよう、スペースを整えつつ、間隔を揃えていきます。できあがったら、他の文字要素も、外枠がボックスになるように組んでみます[4]。これでおおよそのバランスが完成です。文字詰めや両サイドも微調整しましょう[5][6][7]。こういった作業が全体のクオリティにつながるので丁寧に作業していきましょう。

03 要素の調整が終わったら再度組み合わせ、両サイドを揃え、各要素間の間隔を調整していきます[8]。

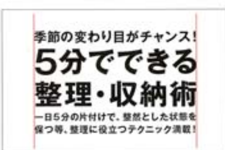
モニタ上で拡大・縮小しながら、文字がきちんと揃っているかどうかを確認していくのは当然ですが、必ず実寸で出力して確認することが大切です。その場合も手元で見るだけでなく、遠くからも見て確認しましょう[9]。背景を足せば完成です[10][11]。

FIN

基本ルール

箱組み

箱組みとは、文字の天地左右が揃っていて四角い箱に入っているように見える文字組みのことです。作例のように見出しとして使ったり、ビジュアル要素として使うこともできます。箱組みは単に左右の幅を揃えるだけでなく、中身の文字間隔など、細かな部分の調整も大切です。



17

切り抜きを使ったリズム感のあるデザイン

切り抜き画像に手描き画像を加えて、楽しいページを作成しましょう。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5
Photoshop CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

切り抜き画像によるレイアウト

撮影した被写体を背景から切り取った形で使うものを「切り抜き」といいます（また、写真を撮影した長方形の形のままレイアウトで使うことを「角版」と言います）。カタログ等、商品等を掲載する際によく使われます。今回は、切り抜きで広がるレイアウトの自由度を活かして、楽しさや、リズム感を感じさせるデザインにしていきましょう。

01 人や風景画像を切り抜きます。

画像の切り抜き作業はPhotoshopで行います。［クイック選択ツール］などで選択範囲を作成し、不要な部分を取り除きます 1 2 3 4。今回は楽しさを演出するために、切り抜きも粗めにし、あえてチープな雰囲気を狙っています。なお、選択範囲を作成した後、［選択範囲］メニュー→［境界線を調整］の機能を使うと、選択範囲をなめらかにするといった作業が簡単に行えます。

02 Illustratorで新規書類を作成したら、書類の版面を決め、要素を配置していきます。

［長方形ツール］で［幅：230mm 高さ297mm］の長方形を作り、ガイドに版面としました。余白などを決めてガイドを作成します。版面ができたら、タイトルから配置していきますが、同時に切り抜いた素材も貼りつけていきます。要素を誌面全体に散りばめるように、ものによっては角度をつけながら、動きを感じられるように配置していきます 5。視線の移動が複雑にならないよう、特に写真要素とテキストの高さを意識しながら場所を決めていきます 6。背景は周囲にはあえて余白を残すようにして敷き、画像があえてはみ出すように配置しています 7。誌面に動きを感じさせる手法です。

03 ちょっとしたイラストを描いて追加し、位置を合わせて完成です。

あくまで位置の目安とするだけなのですが、［ファイル］メニュー→［書き出し］を選んで、画像をPSD形式で書き出します。仕上がり寸法（ここではA4）、［解像度：300dpi］で書き出すのがいいでしょう。書き出したファイルをPhotoshopで開いたら、新規レイヤーを作成し、ブラシを使って空白部分にイラストを描いていきます。タブレットを使ったり、紙に描いたものをスキャンしてもいいでしょう 8 9。イラストを描いたレイヤーをコピーしたら、Illustrator側に戻って画像をペーストします。位置を合わせて完成です 10。こういった切り抜きを使ったレイアウトのポイントは、切り抜きで広がるレイアウトの自由度を活かして、楽しさや、リズムを大切にし、レイアウトするという点にあります。

FIN

18

角判写真をグリッドに配置した構成

マス割に沿って画像を散りばめ、リズム感のあるデザインに仕上げます。

PPLICATION: Illustrator CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

01 今回は、マス型の区割りに沿って画像をレイアウトしていこうと思います。

まずは枠組みから作成します。［長方形ツール］で、［幅：105mm 高さ：148mm］の長方形を作成します 1。［長方形グリッドツール］で、［幅：95mm 高さ：138mm］［水平方向の分割：4］［垂直方向の分割：3］で枠線を作成します。外側は仕上がりを示す枠、内側はレイアウトのための枠です。縦に5つ、横4つの合計20区画を作りました。周囲に余白を作ったのは、余裕をもってレイアウトをするためです。

02 マス目を元にガイドを作ります。

まず、区切りのラインを［4mm］にします。このときの太さが画像を配置する際の間隔になることをイメージしながら、好みの太さに設定します 2。できあがったら、ラインを選択した状態で、［オブジェクト］メニュー→［パス］→［パスのアウトライン］と選択して、ラインを矩形に変換します 3 4。

03 使いやすいマス目にします。

続けて、［パスファインダー］パネルで［合体］をクリックして 5 選択したラインをひとつのオブジェクトとして統合します 6。そのうえで、［ダイレクト選択ツール］を使って、外側の枠をそれぞれ選択して取り除きます。すると 7 のような白黒が反転したマス目の図版ができあがります。この後の作業をしやすくするために、色をグレーに変えます。

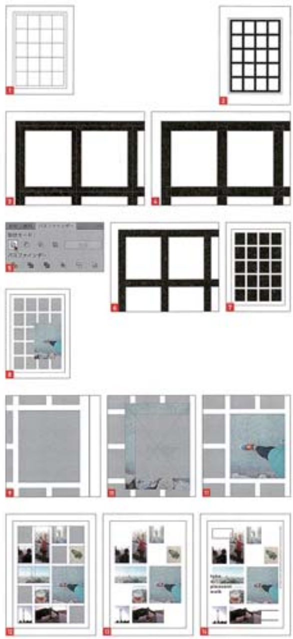
04 画像を配置していきます。

まずは、メインとして大きく使用する画像から検討します。［ファイル］メニュー→［配置］を選択して画像を読み込み、レイアウトします。メイン画像は4マスを使うことにします 8。

05 画像にマスクをかけて、きちんとトリミングされた配置にします。

4マス分のスペースに、きっちり沿ったトリミングをするには、9 のように、4マス分のスペースの外枠に沿った長方形を作成し、写真とその長方形を両方選択した状態で［オブジェクト］メニュー→［クリッピングマスク］→［作成］を選択します 10 11。このとき、長方形が写真より前面に来るよう配置します。画像や見出しを配置して完成です 12 13 14。

FIN



グリッドシステムを使った秩序と安定感のあるデザイン例

19

グリッドシステムやジャンプ率をうまく使うことは、雑誌デザインなど読ませる必要がある媒体にはとても有益です。リズム感のある誌面作りを心がけましょう。

APPLICATION: Illustrator CS3/4/5 Photoshop CS3/4/5 CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

グリッドデザインの効果

雑誌やパンフレットなどでは、本文の段組みを決定し、その段組み内でレイアウトする手法「グリッドデザイン」が使われることが多いです。インタビューコーナーや寄稿文など、読み物の分量が多い場合も、読む順序や流れが一目でわかるグリッドレイアウトならば、読者は心地よくページをめくることができます。

01 グリッドシステムを使用してレイアウトしていきます。任意の本文幅のグリッドを3段で用意し、その中に本文を流し込んで行きます1。

[長方形ツール] で文字を入れる長方形を作成し、[オブジェクト] メニュー→[パス]→[段組設定] で、[行 段数:3] [列 段数:1] の段組を設定し、幅を調整します。できた段組を選択して、[書式] メニュー→[スレッドテキストオプション]→[作成] でテキストが流し込まれるようになります。

02 ガイドを任意で敷いていきます2。

ガイドにしたいパスを選択し、⌘([Ctrl])+[5]でパスをガイドに変更できます。天地、小口（左右外側の縦もライン）、ノド（綴じ側、内側のライン）からの幅を決め、レイアウトドキュメントに反映させます。一般的に雑誌では「ノド」の幅は大きく取るべきで、100ページを超える雑誌などでは5〜10mmは閉じて見えなくなります。本文などは少なくともノドから20mmくらい離してレイアウトしましょう。

03 グリッドデザインでレイアウトした例3と、グリッドを使わない失敗例4を見てみましょう。

雑誌等のレイアウトは、読者に読みたい気持ちにさせることが一番重要です。グリッドを無視すると乱雑なイメージになるばかりか、読者に一番見せたい画像が埋もれてしまいます。グリッドに沿ってジャンプ率を大きくレイアウトを施すと、メイン画像に注目させやすく、誌面の編集意図を伝えやすくなります。

04 本文はグリッドシステムを利用し、ビジュアル要素ではグリッドにとらわれない形にすることもよいでしょう。

本文レイアウトではグリッドを使用してかっちりと。デザイン画像やビジュアルをグリッドを使わずに大胆に遊ばせてみます。このように応用することで、おとなしくなりがちなグリッドシステムのデザインを華やかな印象にもできます5。

FIN

欧文と和文フォントをうまく組み合わせたデザイン

20

欧文書体と和文書体を組み合わせた展覧会チラシを作ります。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

可読性を保つこと

今回のデザインでは、欧文と和文が重なったかたまりをバランスよく配置していくのがポイントです。見た目のかっこよさだけではなく、文字の可読性をきちんと保てるよう調整していきましょう。可読性を高めるためには、視認性の高い色を使ったり、明度差をつけるなどさまざまな方法がありますが、背景や飾りなどのデザイン要素と文字を重ねる際には、描画モード［乗算］を使うと最低限の可読性を確保することができます。

01 展覧会のチラシを作っていきましょう。

1の文字要素をデザインして展覧会用のチラシにしていきたいと思います。上部と下部の和文と英文は同じ内容です。

02 タイトルをデザインします。

デザインを始めるにあたって、まずは「和文は縦書き」「英文は横書き」にするとルールを決めました。双方の本来の組みを活かしつつデザインをしようということです。まずはじめにタイトルの位置を中央に配置し、文字色[C:0 M:80 Y:20 K:0]に決めました23。次に、このタイトルに対応する英文を和文に重なるように配置します。文字色は[C:54 M:0 Y:22 K:0]としました45。

03 可読性を高めるため、英文書体の重なり方を変更します。

[ウィンドウ] メニュー→[透明] を選択して [透明] ウィンドウを表示させ、描画モードを [乗算] に設定します6。このように、和文と欧文を同一付近に配置し、意味合いを強めると同時に新鮮な見え方を狙っています。[乗算] とは色を掛け合わせることで、結果、暗いカラーとなり、最低限の可読性を確保できます。

04 英文と和文をバランスよく配置していきます。

同様の考え方で英文と和文を呼応させつつ、それぞれの要素をバランスよく配置していきます7。それぞれの重なり部分は、同じように [乗算] の機能を使っています8910。

05 飾りや背景を配置して完成です。

飾りとしてラインや、マークを配置していきます11。水色のラインは [直線ツール] で [C:54 M:0 Y:22 K:0] です。ラインにも同様に [乗算] を適用しています。背景に画像を配置したら完成です12。

FIN

ジャンプ率を大きくしたインパクトあるレイアウト

書体のサイズや太さを調整することで、
印象に残るフライヤーを作ります。

034

APPLICATION: Ai Illustrator CS5 / 5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

ジャンプ率

ジャンプ率とは、文字やグラフィックなどのサイズの大小の比率のことです。情報の優先順位を考え、読み手にとって伝わりやすいかどうかを念頭において作業しましょう。書体のサイズを変える場合は、文字のウエイト（太さ）にも注意が必要です。

21

01 まず、文字要素をざっくりと組みます 1。

このまま細部を整えていくやり方もありますが、今回は「情報をより伝わりやすいものにする」「文字をメインの要素としたまま、力強さをUPする」というふたつの観点から、それぞれの文字に強弱をつけていくことにします。全体を眺めつつ、情報の優先順位をつけ 2、さらに要素の中身が適当かを確認していきます。

02 強調する文字を決めます。

今回作成する書類の主旨を検討し、3 の赤字部分の優先度を高める必要があると判断しました。さらに各要素を先ほど検討した優先順位で目立つよう工夫していきます。

03 まずはタイトルから作業します。

優先順の高い「誤認」「補間」「狭間」といったキーワードを浮かび上がらせるために、「と」と「の」を小さくします。「と」を選択したら 4、［文字］パネルで［水平比率］と［垂直比率］をそれぞれ［50%］に設定します 5 6。同様に「の」のサイズも小さくします。

04 他の文字も調整しましょう。

「年」「月」「日」「曜日」という文字も同様に小さくします 7。「年月日」はベースライン（文字の高さ）を揃えるために、［文字］パネルで［ベースラインシフト］の値を変更しておきましょう 8。

one point

［ベースラインシフト］で、横組みテキストのベースラインを基準に文字の高さを上下に移動させることができます。プラスの値で上へ、マイナスの値で下に移動できます。

05 続けて、「AM」「PM」を調整します。

まずは、「AM」のみを別の場所にコピー&ペーストしたら、［書式］メニュー→［組み方向］→［縦］として縦方向の文字にします 9。さらに、［文字］パネルのオプションから［縦組み中の欧文回転］を選択し 10、さらに、［自由変形ツール］で他の文字と天地のサイズが同じになるように縮小します 11。同様に「PM」も縦組みにし、同じ方法で「曜日」も縦組みに変更します 12。こうすることによって各要素のまとまりが強くなり、そのぶん、左右の幅も取れるようになります。

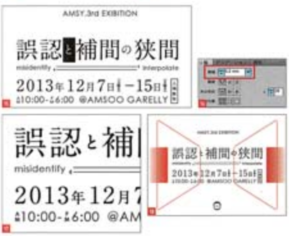
06 各要素の横幅を合わせます。

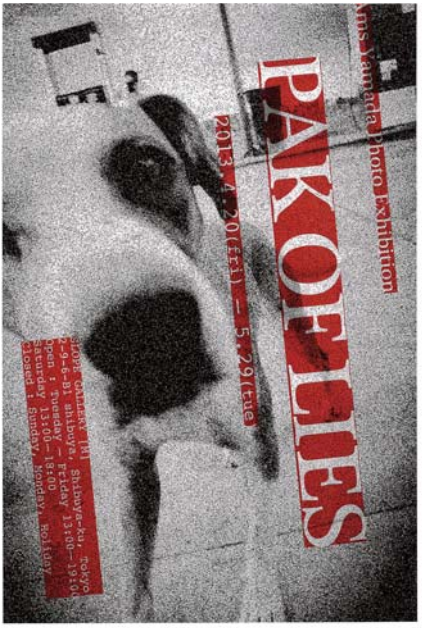
［自由変形ツール］で、各要素の横幅を合わせます 13 14。［表示］メニュー→［定規］で定規が表示されるので、垂直方向のガイドを作成する場合は左側の定規、水平方向のガイドを作成する場合は上部の定規にポインターを置いて、ドラッグします。

07 完成度を上げていきましょう。

これで完成としてもいいのですが、もう一手間加えることで、より完成度を上げることができます。「と」のように、小さくした文字と他の並びの文字を見比べると、ウェイトが違って見えます 15。そこで、書体の太さを変更して、見た目の太さを統一していきます。本来は「と」の書体を「bold」に変更すればいいのですが、この書体には「bold」が存在しないので、文字がつぶれないように注意しながら、「線幅」の数値を増やして、太らせていきます 16。同様に、他の文字も同じウェイトに見えるように調整し 17、背景をつければ完成です 18。

FIN





写真をモノトーンに加工したデザイン

写真をモノトーンに変更し、ノイズを加えることで印象を変えます。

APPLICATION: Photoshop CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

22

01 まずは、元画像である1をモノトーン化します。

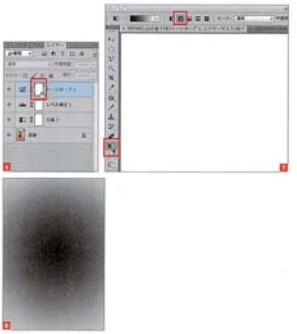
Photoshopで写真をモノトーンに変換する方法はいくつもありますが、白黒画像の色味をコントロールしやすいのが、色調補正の［白黒］機能です。ここでは［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［白黒］と選んで適用します。2のように、パラメーターを調整して、好みの色調に変換します3。

02 画像にメリハリをつけます。

［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［レベル補正］の調整レイヤーを使って、さらにメリハリをつけます4。［レイヤー］パネルは5のようになっています。

03 次に、周囲が暗くなるような効果を加えます。

まず、［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［トーンカーブ］を追加したら、［レイヤー］パネルが開いて作成されたマスクのサムネイルを、alt/option キーを押しながらクリックします1。すると画面上に、黒っぽい画面が現れます。これはマスクの画面で、ここに［描画色：黒］で描いた部分がマスクになります。［グラデーションツール］を選択し、オプションバーから［円形グラデーション］2を選んで、3のような、黒から白へ変化するグラデーションを描きます。



04 さらに調整していきます。

［レイヤー］パネルで、［トーンカーブ］のアイコンをダブルクリックすると、トーンの調整ができます。画像を暗くするように調整すると1、工程03で作成したマスクで隠されていない部分（黒色でない部分）に効果が適用され、画像の周辺のトーンが落ちます2。効果が弱いと感じた場合は、調整レイヤーを複製してもいいでしょう。なお、画像の明るさは工程02で適用した［レベル補正］も調整して、全体のバランスを見ながら調整してください。このように、調整レイヤーを使うと、あとからでも画像の調整が可能になります。

05 画面にノイズを適用したいと思います。

その前に元画像のレイヤーを複製し1、［レイヤー］パネルのオプションメニューで［スマートオブジェクトに変換］をクリックします。スマートオブジェクト化すると、フィルターを何度かけ直しても画像の劣化を最低限に抑えることができたり、フィルターの適用条件を調整したりといったことが自在にできるだけでなく、適用のオン／オフを切り替えたりといったことも容易です。複製したレイヤーを選択した状態で［レイヤー］メニュー→［スマートオブジェクト］→［スマートオブジェクトに変換］を選択します。適用後の［レイヤー］パネルは2のようにサムネイルのアイコンが変更されます。

06 ［フィルター］をかけます。

［フィルター］メニュー→［ピクセレート］→［メゾティント］と選択し、表示されたウィンドウの［種類］のプルダウンメニューで［粗いドット］を選択して［OK］ボタンをクリックします1。そのうえでレイヤーの描画モードを［ハードライト］に設定、［不透明度：70%］に設定します2。ここからはそれぞれの調整レイヤーやスマートオブジェクトを調整して仕上げや修正を行ってください3。

07 最後に、文字を配置しています。

写真の雰囲気を大事にしつつ、こちらもあのモノトーンでまとめました1。こういったモノトーンの写真を調整する場合は、コントラストをつけすぎて暗部がつぶれたり、ハイライトが飛びすぎて写真の雰囲気を損なわないように注意しましょう。

FIN

スタンプで彩るアナログ的デザインのポストカード

23

文字は輪郭線(エッジ)をぎざぎざにしてから、[雲模様]フィルターやレイヤースタイル[コピー]で質感をつけ、スタンプ風にします。
写真は、[フィルターギャラリー]で簡単にスタンプ風にできます。

APPLICATION: Illustrator CS6 Photoshop CS6 CREATOR: Toshiyuki Takahashi (Graphic Arts Unit)

基本ルール

アナログ感の表現

デザインするテーマによって、アナログ的な表現を取り入れたい場合があります。アナログ感の演出には、実際のアナログ素材を利用する方法と、アナログ風に素材を加工する方法がありますが、両者をうまく組み合わせることで表現の幅が大きく広がります。希望するデザインのアナログ素材が存在していなくてもいいように、デジタルで再現できる手法を習得しておくといいでしょう。

01 タイトルの文字を作成します。

Photoshopで[幅:15.4cm][高さ:10.6cm][解像度:350dpi][カラーモード:RGBカラー]で新規書類を作成します。[文字]パネルで[フォント:Museo 700][サイズ:74pt]に設定し、[横書き文字ツール]で「C」の文字を入力します。この文字のレイヤーを複製しながら、残り[RAFTMARKET]の文字を作成します。すべては個別のレイヤーになるようにしましょう。これらをランダムに傾けて、バランスよく配置します。

one point

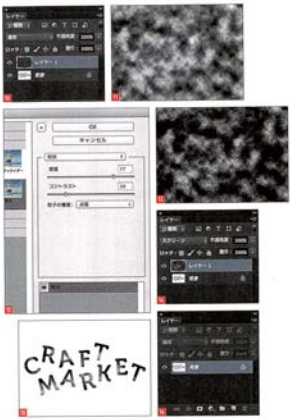
フィルターやレイヤーなどを使って作業するときは、カラーモードを[RGBカラー]にしておくのが基本です。

02 文字のエッジをぎざぎざに加工します。

[レイヤー]→[画像を統合]を実行してすべてのレイヤーを統合しながら、[描画色と背景色を初期設定の黒白に戻して]、[フィルター]メニュー→[フィルターギャラリー...]を選択して[ぎざぎざのエッジ]を[画像のバランス:25][滑らかさ:15][コントラスト:17]で実行します。

03 質感のベースになるテクスチャを追加します。

新規レイヤーを作成し、[フィルター]メニュー→[描画]→[雲模様1]を実行します。さらに、[フィルター]メニュー→[フィルターギャラリー...]を選択し、[粗材]を[強度:77][コントラスト:20][粒子の種類:点描]で実行します。その後、このレイヤーを[描画モード:スクリーン]に変更しあと、[レイヤー]→[画像を統合]を実行してすべてのレイヤーを統合します。



04 スタンプ風の加工を仕上げます。

再び[フィルター]メニュー→[フィルターギャラリー...]を選択し、[コピー]を[ディテール:20][暗さ:15]で実行します。これで文字がスタンプ風のイメージに加工できました。

05 動物の写真をスタンプ風に加工します。

動物の写真を開き、[フィルター]メニュー→[フィルターギャラリー...]を選択し、[スタンプ]を[明るさ・暗さのバランス:15][滑らかさ:4]で実行します。必要なのは動物の部分だけなので、背景の範囲は[消しゴムツール]を使って白く塗りつぶしておきましょう。今回は、象に加えてペンギンの写真をスタンプ風に加工しました。

one point

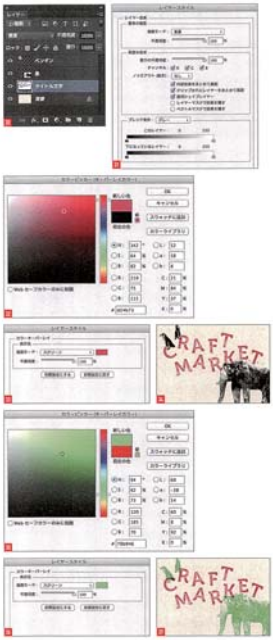
[スタンプ]の設定は写真に応じて微調整しましょう。

06 下地のテクスチャに文字と動物を合成します。

下地となるクラフト紙の画像をPhotoshopで開きます。画像は、ポストカードの仕上がりサイズに塗り足し分(3mm)プラスしたサイズにしておきます。ここに、先ほど作成した文字の画像をコピーペーストし、レイヤーを[描画モード:乗算]にします。同様に動物の画像をペーストし、大きさや角度などを調整します。文字と同じく[描画モード:乗算]としておきましょう。

07 文字と動物に色をつけます。

文字のレイヤーを選択し、[2]、[レイヤー]メニュー→[レイヤースタイル]→[レイヤー効果...]を選択し、[内部効果]をまとめて[編集]にチェックを入れます[3]。左列の効果一覧から[カラーオーバーレイ]を選択し、[カラー]を[R:210 G:75 B:115]に変更して[4]。[描画モード:スクリーン]で[OK]をクリックします[5]。文字に色がつきました[6]。これと同じ要領で、動物のレイヤーにも[カラーオーバーレイ]を[R:120 G:185 B:70]で追加します[7][8][9]。



08 カラーモードを変更して保存します。

すべて完成したら、[レイヤー]→[画像を統合]を実行して[1]。すべてのレイヤーを統合し、[イメージ]メニュー→[カラーモード]→[CMYKカラー]に変更します。これをPSD形式で保存します。ファイル名は[ポストカードベース.psd]としました[2]。

09 Illustratorでレイアウトを仕上げます。

Illustratorを起動し、[ファイル]メニュー→[新規...]を選択し、[プロファイル:プリント]を選択したあと、[幅:148mm][高さ:100mm]に変更して[OK]します[1][2]。[ファイル]→[配置...]を選択し、先ほど保存した[ポストカードベース.psd]を選択します[3]。これをアートボードの中心に揃えたあと[4]、残りの文字を配置して完成です[5][6]。

FIN

トリミングで演出する“ゆるかわ”デザイン

ラフな枠で画像をトリミングし、柔らかなデザインを演出します。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.3 CREATOR: Masaya Eiraku

24

081

01 Illustratorで新規書類を作成していきましょう。

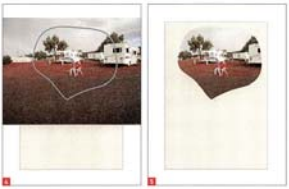
[長方形ツール]で、ページに[幅:210mm 高さ:297mm]のような長方形を作ります。今回はナチュラルな雰囲気に仕上げるため、色味は[C:5 Y:5 M:15 K:0]の明るめのクリーム色にしました[1]。

02 画像を配置します。

[ファイル]メニュー→[配置]を選んで[2]、画像を呼び出します。[3]をメインの画像として使用します。

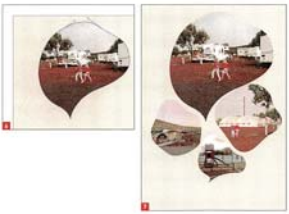
03 枠を作ります。

[ペンツール]を使って[1]のような感じで囲みます。楽しそうな感じに仕上げたいので、画像の使いたい部分をぎっくりと囲む程度の感覚で作業したほうがうまくいきます。囲みができたら、描いたラインと配置した写真の両方を選択した状態で、[オブジェクト]メニュー→[クリッピングマスク]→[作成]を選択します。すると[2]のように、囲んだ部分だけが残ります。



04 形を調整していきましょう。

[ダイレクト選択ツール]などを使うと、形の調整を行うことができます。形が気に入るまで調整を行ってください[1]。他の画像も同様に配置し、クリッピングマスクの機能を使って形を決めていきます。全体的にふわふわとした印象になるようにラフなラインを心がけましょう[2]。

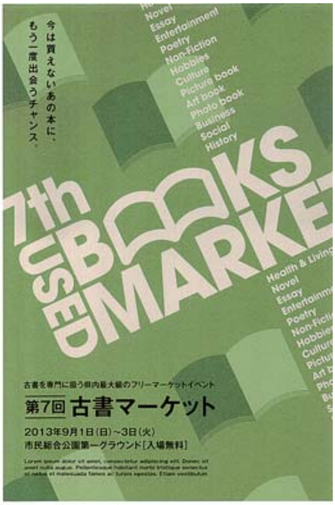


25

文字をメインに使ったポスター

定規を使ったり、回転、
複製などを組み合わせながら、
文字と図形を配置していきましょう。

APPLICATION: Ai Illustrator CS6
CREATOR: Toshiyuki Takahashi (Graphic Arts Unit)



基本ルール

タイポグラフィ

文字を主に扱ったデザインやレイアウトはタイポグラフィと呼ばれ、ポスターなどのアイキャッチとして使うことが多くあります。これは、文章の意味を理解させる前に、視覚的要素で注視を促すという効果を狙ったものです。文字をうまく扱えること、きれいに組めることはデザインをするうえでとても重要な要素と言えるでしょう。

03 文字を追加します。

先ほどと同じフォントの設定で、今度は「MARKET」という文字を入力します。これを「BOOK」の下に配置します。このとき、文字の左端と「K」の垂直ステムのラインが揃うように意識しましょう。なお、タイポグラフィでは文字がメインになるため、カーニングなどのバランスには特に気を配り、きれいな文字組みに仕上げることが大切です。

one point

正確に作業するにはガイドを使うといいでしょう。ガイドは[表示]→[定規]→[定規の表示]を選択して定規を表示し、そこからドラッグして引き出します。

04 さらに文字を追加してタイトルを完成させます。

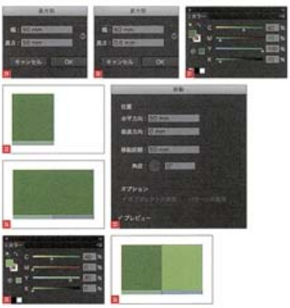
今度は[サイズ:167pt]で「7th」、[サイズ:142pt]で「USED」の文字を作成します。フォントはこれまでと同じです。「USED」の文字を選択し、[回転ツール]をダブルクリックして[角度:−90°]で文字を回転させたら、「BOOK」と「MARKET」の左に配置します。これも、「USED」の幅が「BOOK」と「MARKET」2行の高さに揃うように微調整しましょう。「7th」の文字は、右端が「BOOK」の「B」に揃うようにします。

05 カテゴリーの文字を作成して配置します。

[フォント:Avant Garde Gothic Itc T Bold][サイズ:26pt][行送り:28pt]の設定で、カテゴリー一覧のテキストを作成します。カテゴリーひとつごとに改行しましょう。この文字の左列を「BOOK」の「K」の垂直ステムに揃えてタイトルの上下に配置しました。

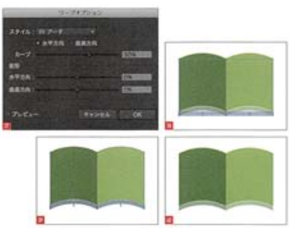
06 背景用のパーツを作成します。

[長方形ツール]で[幅:50mm][高さ:56mm]の長方形をひとつ、[幅:50mm][高さ:0.6mm]の長方形を3つ作成し、[塗り][C:60 M:10 Y:100 K:10][線:なし]に設定します。これらをのように少し隙間を空けて縦に並べます。すべての長方形を選択し、[オブジェクト]メニュー→[変形]→[移動...]を[水平方向:50mm][垂直方向:0mm]で[コピー]をクリックして複製します。複製したほうの長方形は[塗り][C:40 Y:80]に変更します。



07 背景用のパーツを仕上げます。

長方形すべてを選択し、[効果]メニュー→[ワープ]→[アーチ...]を[カーブ:30%]で実行します。それぞれの長方形が変形して本のイメージになりました。これらすべてを選択した状態で[オブジェクト]→[アピアランスを分割]を実行したあとグループ化しておきましょう。

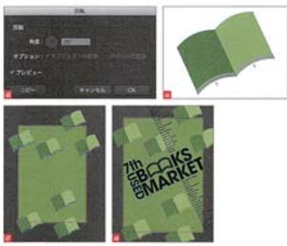


08 ポスターのベースを作成します。

[ファイル]メニュー→[新規...]を選択し、[プリセット:プリント]に設定したあと[サイズ:A3]に変更して[OK]します。[長方形ツール]で[幅:303mm][高さ:426mm]の長方形を作成して、[塗り][C:50 M:10 Y:100][線:なし]に設定し、アートボードの中央に揃えます。先に作成したタイトル文字と背景用パーツは、このポスターのファイルへコピーペーストして持ってきておきましょう。

09 背景のパーツと文字を配置します。

背景用パーツを選択し、[回転ツール]をダブルクリックして[角度:25°]で回転させます。これらを複製しながら、のように全体に配置します。さらに、タイトル文字のセットを選択し、同様に[回転ツール]で[角度:25°]に回転したら、ポスターの中央に配置します。タイトル文字の色は[C:5 M:5 Y:100 K:5]にしました。



10 ポスターを完成させます。

キャッチコピーやイベント名、日程などの文字を配置してポスターの完成です。

FIN

色相を絞った調和の取れたデザイン

26

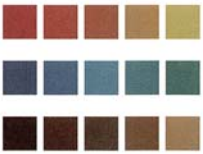
ミッドセンチュリー風の背景を作成します。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eraku

基本ルール

色相について

色相とは、彩度、明度といった「色の三属性」のひとつで、赤・青・緑・黄といった色合いのことをいいます。色相を環状に並べたものが色相環です。隣り合う色や、その間りの色の関係は同系色といい、同系色は調和の取れたイメージにすることができます。



01 使用する色を選びましょう。

まずはミッドセンチュリーの雰囲気でまとまるよう、使用する6色を選びます 1。[C:50 M:70 Y:80 K:40] 2、[C:35 M:65 Y:75 K:40] 3、[C:20 M:44 Y:69 K:52] 4、[C:30 M:50 Y:80 K:20] 5、[C:30 M:40 Y:70 K:0] 6 と設定しています。

02 決めた6色のうち、5色を使ってテキスタイルパターンを作成していきます。

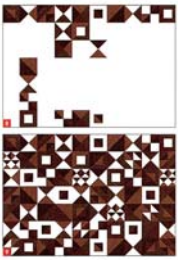
[長方形ツール] でまず基準となる大きさの正方形を作成します。その中で、残角形と三角形を用いた幾何学模様を描きます。正方形は [長方形ツール] で [Shift] キーを押しながらドラッグします。三角形は [多角形ツール] で画面をドラッグしながら [↑] または [↓] を押すことで作成できます。[ライブペイントツール] で、色を塗りわけます。ところどころ、[塗り：なし] の余白を残しておくのがポイントです。さまざまなパターンを作っておあます 7。

one point

正確にオブジェクト同士をスナップさせた図形を作るには、[表示] メニュー→[ガイドにスナップ]、[ポイントにスナップ]、[スマートガイド] にチェックを入れて作業します。また、正方形と三角形が組み合わされたオブジェクトを塗りわけるには、[オブジェクト] メニュー→[ライブペイント]→[作成] をクリックし、[ライブペイントツール] を選択して、塗り分けたいオブジェクトに近づけます。塗り分ける領域が表示されるので、任意の色を指定します。

03 パターンを配置していきます。

できあがったパターンを [オブジェクト] メニュー→[変形]→[回転] で回転させたり、[オブジェクト] メニュー→[変形]→[リフレクト] で水平・垂直に反転させるなどしながら、ランダムに配置していきます 1 2。並べ方にルールは特にありませんが、全体のバランスを見ながら、イメージを膨ませていってください。なお、最後にガイドラインを引くと速く正確な作業ができます。



one point

ガイドとなるラインは、[直線ツール] や [パスツール] で水平なラインを上端と下端（右端と左端）に作成し、[オブジェクトツール]→[ブレンド]→[作成] をすると、間に同一のラインが複製されます（ラインの数は [ブレンドオプション] の [ステップ数] で調整します）。ブレンドでできたラインは [オブジェクトツール]→[ブレンド]→[拡張] で個別のラインとして選択することができます。これらのラインを選択し、[表示] メニュー→[ガイド]→[作成]（ショートカットは [Ctrl]+[5]）で、これらのラインをガイドにすることができます。

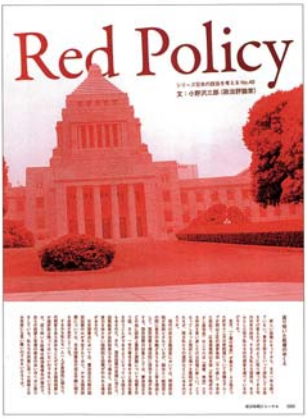
04 最後に残しておいた一色で背景を塗りつぶします 1。

背景画像を塗りつぶし。[オブジェクト] メニュー→[重ね順]→[背景面へ] をクリックします。工程02で [塗り：なし] としておいた部分を一度に塗りつぶすことができます。気に入らない場合は、全体のバランスを見ながらさらに調整を進めてください。

05 タイトル文字と他の要素を配置します 1。

文字は、マス目の大きさと文字の高さが揃うようにして大きさ組えると、見栄えよく仕上がります 2。フォントは [Rosewood Std Fill] を使用しています。今回はデキスタイルをメインにしたいため、文字が主張しすぎないように仕上げます。文字部分を選択したら [ウィンドウ] メニュー→[透明] を選択してパネルを表示させ、[描画モード：乗算] を選びます 3 4。最後に、残りの要素を配置します。その他の要素も描画モードを [乗算] としています 5。

FIN



色相を絞り込んでまとまりのあるストレートなデザインに

カラフルにして目立たせるのではなく、あえて色相を絞り込んでデザインにポリシーを与えてみましょう。絞り込んだ色彩はストレートにイメージを伝えてくれます。

APPLICATION: Illustrator CS4
Photoshop CS4
CREATOR: Shingo Suzuki (magnet design)

27

01 まずPhotoshopで用意した元画像を加工します。

[レイヤー] パネル下部にある [塗りつぶしまたは調整レイヤーを新規作成] ボタンをクリックして [色相・彩度...] を選択するか、[色調補正] パネルから [色相・彩度の新規調整レイヤーを作成] をクリックしたら、[色調補正] パネルの [彩度] のスライダーを一番左端 [−100] までスライドさせてモノトーンにします。

02 画像の色を赤くします。

[レイヤー] パネル下部にある [塗りつぶしまたは調整レイヤーを新規作成] ボタンをクリックして、今度は [べた塗り...] を選択すると [べた塗りする色を選択] というダイアログボックスが表示されるので、図のように [M：100%、Y：100%] と数値入力して赤色にしたらOKをクリックします。[べた塗りレイヤー] が最上階層にあることを確認し、[レイヤー] パネルの [レイヤーの描画モード] を [設定] で [薄い焼き] にすると図会議事堂が赤くなります。さらに [レイヤー] メニュー→[画像を統合] してから [イメージ] メニュー→[モード]→[CMYK カラー] にしたら、画像に適当な名前をつけて保存しておきましょう。

03 マスクをかけます。

Illustratorで [長方形ツール] をアートボード上でクリックして [長方形] ダイアログボックスを表示させ、オプションに [幅：210 mm、高さ：284mm] と入力しOKを押して画面の図面になる矩形を描きます。そこに [ファイル] メニュー→[配置...] で、工程02で保存した画像を呼び出し配置したら、図面に対して適切な大きさの矩形を描き [オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[作成] でマスクをかけます。

04 文字を入力して画像の後ろに見えるようマスクをかけます。

[文字ツール] で入力した見出しの [Red Policy] を、図のになった画像に合わせて [回転ツール] で角度をつけます。[書式] メニュー→[アウトラインを作成] もしたあとに、[オブジェクト] メニュー→[複合パス]→[作成] をかけて、作例のようにグラデーションを施し赤色に幅を持たせます。図会議事堂と違った部分は文字の装飾の後ろ側に見えるように、[パンツール] で図会議事堂のシルエットをなぞりクリッピングマスクをかけます。

05 本文を流し込み、他の情報も入れて完成です。

最後に図面の下部に [長方形ツール] で作った矩形に、[エリア内文字 (縦)] ツールを使って本文テキストを流し込みます。通常、本文は可読性を重視して黒100%などを適用しますが、作例ではあのイメージを強調するために [M：100%、Y：100%、K：30%] としました。ノンブルなど、その他の情報を入れたら完成です。

FIN

行揃えの組み合わせで対比を感じさせるレイアウト

左揃えと右揃えを同じページに混在させて、対比したイメージを作り出してみましょう。
文字組みだけのレイアウトでもイメージを伝えるための立派なデザインになります。

APPLICATION: Illustrator CS4
CREATOR: Shingo Suzuki (magnet design)

基本ルール

左揃え、右揃え

［左揃え（行頭揃え）］とは、横書きの場合に行の左側に行頭を一致させる文字組みのことをいいます。この場合、行の右側に当たる行末は不揃いとなります。また［右揃え（行末揃え）］はこれとは逆に、横書きの場合で行の右側に行末を一致させる文字組みのことをいいます。行の左側に当たる行頭が不揃いとなります。この他、行の揃え方には［中央揃え（センタリング）］、［均等配置］、［両端揃え］などがあります。さまざまな用途に適した揃え方を心がけましょう。

28

01 雑誌の扉のページを想定したデザインを作っていきます。

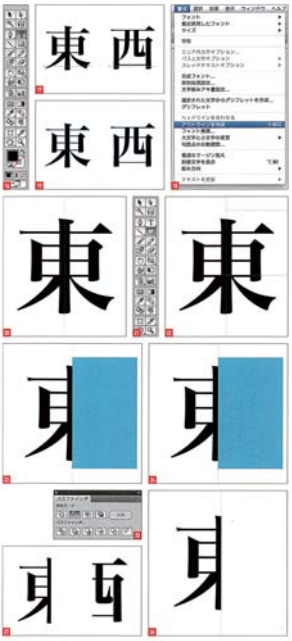
まずは東西の違いの項目を［文字ツール］を使い一項目ずつ入力して改行します 1 2。入力が済んだら、西は左揃え、東は右揃えで揃えていきます。［段落］パネルの［左揃え］［右揃え］の各ボタンで行います 3 4 5 6。フォントは［新ゴPro M］、サイズは16pt、行送りは24pt に設定 7。左右の行末と行頭の不揃いその加減を見ながらいかで、それぞれの数の項目を並べると効果的でしょう 8。

02 東西それぞれの項目の中央付近に見出しを入れるために2行分改行します 1 2。

フォントは［新ゴPro B］、サイズは20pt、［VS］のみ37pt に設定。見出しは［段落］パネルのボタンで［中央揃え］に設定してから、中心に配置しましょう。項目の下に東西のコメンテーターの情報も入力しておきます。東西の項目と同じようにそれぞれ［左揃え］と［左揃え］に設定します 3 4 5 6。

03 対比のイメージを強調するために、地色にも「東」と「西」の文字をレイアウトします。

東西の文字を［文字ツール］で入力後に、［書式］メニュー→［アウトラインを作成］を行ってから半分にカットします 1 2 3 4。カットする場合は、左右必要のない部より大きめの矩形を［長方形ツール］などで文字の上に描き、文字と矩形の両方を選択して［パスファインダ］パネルの［前面オブジェクトで型抜き］をクリックすれば簡単です 5 6 7 8 9 10 11。「東」は右半分、「西」は左半分を削除してみましょう 12。



04 最後にレイアウトして完成です。

半分になった東西の文字をライブルーとオレンジに彩色して「東」の半分を紙面の右端に、「西」の半分を紙面の左端にそれぞれ揃えレイアウトします 1 2 3 4。紙面もあまりかぶらずの同系色にまとめましょう。見出しと人物紹介の情報は白に、［VS］のみライトブルーとオレンジを地色に対して文字に彩色して完成です 5 6 7。

FIN

柔らかい文字のデザイン

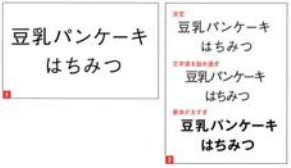
既存のゴシックフォントを元に柔らかい印象のロゴを作ります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

29

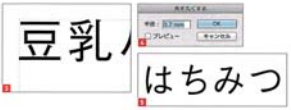
01 お店のロゴを作ります。

1の内容でロゴを作ります。「豆乳パンケーキ」がキックコピーで「はちみつ」がロゴです。柔らかい印象にするために細めのゴシック体の書体を選び、文字間隔に少し余裕を持たせました。これを読み進めるとどこか落ちつきがないように見えますし、太い書体にしてしまうと、それもそれ優しいイメージがしません。書体や文字間は、こうしていろいろと試しながらじっくり検証して選びましょう1。



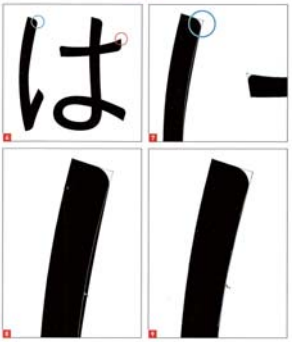
02 書体をアウトライン化し、調整していきます。

書体全体を選択した状態で、[書式]メニュー→[アウトラインを作成]を選択して、書体をアウトライン化します2。アウトライン化とは、書体を図形に変える作業だと考えるとわかりやすいでしょう(一部、アウトライン化のできない書体もありますので注意が必要です)。さらに、[効果]メニュー→[スタイライズ]→[角を丸くする]を選択して、文字の角を丸くします。表示されたダイアログで丸くする[半径]を指定します。ここでは[0.7mm]を設定しています3。



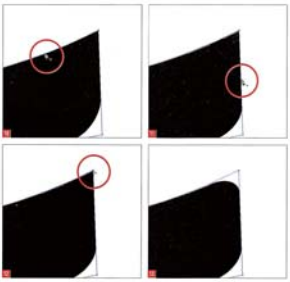
03 部分的に修正していきます。このままでは、文字の美しさが損なわれてしまうのでひとつずつ修正していきましょう。

よく見ていくと、角が丸くなっている部分(写真)となっていない部分(赤丸)があることがわかります4。さらに、曲線の部分には、元々のラインからはみ出たり、ズレている部分もあります5。まず曲線のズレを直します。今回のように[効果]フィルターで発生しがちのは、[ペンツール]でアンカーポイントを増やすことで解消できます。ずれている部分のパスを選択し、[ペンツール]でラインをクリックすると6、アンカーポイントを追加することができ、誤差の範囲を小さくすることができます(正確に沿わせるには細かくアンカーポイント増やすほど正確なトレースが可能になります)7。



04 次に角が丸くならなかった部分を修正します。

[ペンツール]を選択し、元の書体のラインからズレないように、角を構成する[横線]部分にアンカーポイントを追加します8。同様に[縦線]部分にも追加します9。次に、[アンカーポイントの切り替えツール]で角部分のアンカーポイントをクリックします10。こうすることで、アンカーポイントのハンドルを取り除くと、角が丸くなります11。



05 柔らかい表情の「は」が完成しました12。

この作業をすべての文字に行ったら、全体のバランスを調整します。「豆乳パンケーキ」の部分は線を太くして少し太らせ、バランスをとっています13。最後に、ロゴマークと組み合わせてロゴは完成です14。さらに組合文字を組み合わせてフライヤーにしました15。組合文字部分も柔らかい雰囲気を出すために、文字間隔、行間ともに広くとっています。

FIN

文字をメインビジュアルにしたデザイン

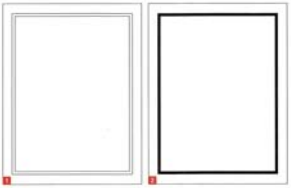
ビジュアル要素が文字しかない場合でも、文字自体をビジュアル要素にすることで、紙面にインパクトを出すことができます。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Hayato Ozawa (cornea design)

30

01 紙面のサイズを決めて版面を作成していきます。

Illustratorを開き、[ファイル] メニュー→[新規] で新規ドキュメントをA4サイズで作成します。次に、[長方形ツール] を選択、画面をクリックしてダイアログで [幅：172mm 高さ：228mm] の長方形を作成します。⌘+⇧+L、⌘+⇧+⌥+V で同位置に複製します。⌘+⇧+⌥+P で [環境設定] ダイアログを開き、[一般] [キー入力：4mm] に設定します。[ダイレクト選択ツール] で、版面のライン を選択し、矢印キーを押して、内側に4mm小さくします。同様にして、内側に4mm小さい長方形を作成します。同方の長方形を選択したら、[パスファインダー] パネルの [排面オブジェクトで型抜き] を押します。[塗り] を黒にしておきます 1 2。



02 文字を入力して配置します。

セリフ体の文字を入力します。行間をなくして、くっついている感じに配置しましょう。さらに左右に寄って動きを出します [書式] メニュー→[アウトラインを作成] でアウトライン化します。一番の文字は反転させるのも効果的です 3 4。

03 文字を削って文字が流れるようなイメージにしていきます。

[楕円形ツール] で適当な大きさの楕円を描き、文字に重ね、[パスファインダー] パネルの [排面オブジェクトで型抜き] を使って、部分的に消去していきます。文字として読めるギリギリで消去するのがポイントです。波形に消去したりすることで、流れを出しましょう 5 6 7 8。

04 下に円を配置し、文字に奥行きをつけます。

[楕円形ツール] で赤い円を描き、[オブジェクト] →[重ね順] →[最背面へ] で、バックに配置します。赤い円を、⌘+⇧+⌥+V、⌘+⇧+⌥+V で同位置に複製ペーストします。[レイヤー] パネルで構造を見ながら作業してください。次に、文字を同様の動作で同位置に複製ペーストします。文字と円がムセつぐつ ある状態になりました。上の円と上の文字を選択し、[パスファインダー] パネルの [交差] をクリックし、円の上の文字のみにして、[塗り：白] [線：なし] にします。残った円を選択し、[塗り：黒] [線：なし] にします。文字やロゴを配置して完成です 9 10 11 12。

FIN

飾りとしてフォントを使ったデザイン

31

Webデザインの装飾に書体を使います。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

文字を飾りとして使う

装飾要素として、文字をデザインして使うことがあります。その場合、単に無意味な飾りとしてだけなく、そのページの内容を示す情報としての役割もあるので、大きさのバランスや配色に統一感を出しながら、最適なバランスを探していくことが大切です。

01 文字を使って装飾していきましょう。

元の文字をアウトライン化したら1、外側のパスのみを選択し、⌘(Ctrl)+C、⌘(Ctrl)+F で同位置に複製し、最前面へ移動させます（こどもはわかりやすいように赤線にしています）。ここで文字の大きさを知りたいので直近のパスを複製2-1、［変形］パネル2-2で数値を確認します。複製した外側のパスを選択した状態で［オブジェクト］メニュー→［パス］→［パスのオフセット］を選択します2-3。このときは先ほど確認した文字の大きさの半分の値にマイナスをつけた数値を入力しましょう。さらに、さきほど入りつ足りない部分も線を伸ばします3。線は直近から比べたどのオフセット量分、間隔を空けておきます。最後に角と中心線をつないでできあがりです4。

02 大きく配置して、意味がきちんと伝わるようにします。

装飾として文字を使う場合は、単に飾りだけではなく、そのページの内容を示す情報としての役割もあることに留意する必要があります。ここでは飾りになるよう大きめに配置しつつ、何のページを表示しているかわかるようにしています1。飾り文字を選択し、［オブジェクト］メニュー→［変形］→［回転］で［角度：−90°］としてタテに配置しました。「更新日時」2や「記事のジャンル」3も同様に、縦に回転させて表示させることにしました。色味は主張しすぎることがないよう、［K：75］としています。

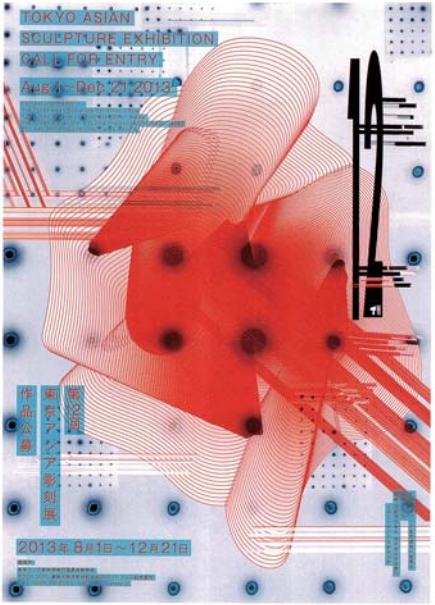
03 FacebookとTwitterへのリンク1、ページ下部からTOPに戻るリンク2も配置します。

よくあるボタンリンクのように、一箇所にまとめるのではなく、見た目と操作性、ユーザビリティのバランスに注意して配置するのがポイントです。

04 文字装飾のバランスを確認して完成です。

文字装飾のサイズはあまり大きいと主張しすぎます。程よいバランスを位置を探しましょう。全体のバランスを再度確認して完成です1-3。

FIN



文字の選択状態をモチーフにした表現

32

Webサイトでの、文字を選択した状態を再現し、
テキストの可読性を高めたポスターを作ります。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

01 展覧会のためのポスターを作ります。

アーティストの作品として1が提供されたと仮定します。作品をしっかりと見せることと情報伝達を両立させなければなりません。テキストはアーティストの作品を邪魔しないような位置でシンプルに配置していくのが基本です。色も無彩色（モノクロ）とし、可読性の高さを確保すべきですが、この作品の場合だと、どうしても読みにくくなってしまいます2-3。

02 可読性確保のために、テキストの地に「座布団」を敷くことにします。

［座布団］とは、テキストがきちんと読めるようにするための背景の下地のことを言います。座布団の敷き方はいろいろとありますが、今回は作品との相性を考え、「Webサイトで、選択したテキストの背景色が反転したイメージ」1で作成してみようと思います。

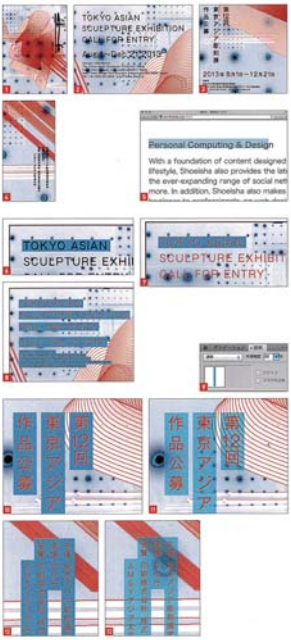
03 ［長方形ツール］で長方形を作成します。

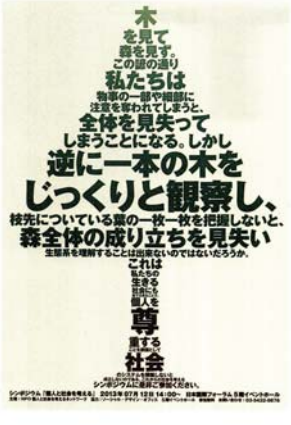
まず、［長方形ツール］を使って、座布団となる［C：100］（青色）の長方形を作成します。［オブジェクト］メニュー→［座布団］→［座布団へ］で長方形を文字の背景とします。このとき、テキストの上の長角の高さの中心が揃うように注意します2。さらにテキストを赤［M100Y100］に変更します3。全体も同様の処理を加えていきます4。

04 長方形の不透明度を変更して完成です。

［ウィンドウ］メニュー→［透明］で表示された［透明］ウィンドウで、［座布団］の［塗り］を［不透明度：60%］に調整すると1、作品を邪魔することなくレイアウトすることが可能になります2-3。今回はメインの作品が黄と赤で構成されていたため、テキスト周りも同様の色味にして統一感を演出しました。

FIN





33

中央揃えで組んだ、見せる文字デザイン

［中央揃え］の特徴をいかして、読ませるだけではなく見せるテキストを組んでいきましょう。字間や行間を詰めてざっしりと文字を組み、シンメトリーなシルエットを足せるのがポイントです。

APPLICATION: Ai Illustrator CS4
CREATOR: Shingo Suzuki (magnet design)

基本ルール

行揃え

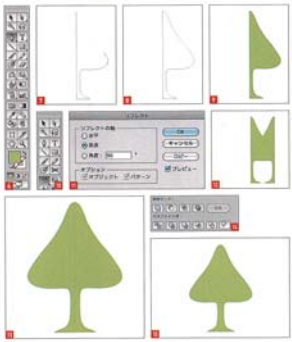
行の揃え方にはルールがあり、文字が何行かにわたるときに行の位置をどのように揃えるかを設定することができます。行の揃え方には［左揃え（行頭揃え）］［右揃え（行末揃え）］［中央揃え（センタリング）］［均等配置］［両端揃え］などがあります。［中央揃え］とは文字通り一行ごとに中央に揃える設定でセンター揃えとも言います。文字をセンター揃えにすると、シンメトリー（左右対称）なデザインとなり、安定したイメージを作り出すことができます。

01 まず文字を入力していきます。

［文字ツール］でテキストを入力していきましょう 1。作例は「木を見て森を見す」という諺にちなんだ文章です。文章はある程度の長さがあるときとの作業でシルエットが作りやすくなるでしょう。フォントは［文字］パネルの［フォントメニュー］または［書式］メニュー→［フォント］から任意のものを選びます。作例ではフォントはためのゴシック体［ゴシックMB101 U］を選びました。フォントの指定が済んだら、［段落］パネル 2 にある［中央揃え］をクリックして中央揃えに設定します 3 4。

02 次に文字を組むときのガイドとなる、木のシルエットを別レイヤーに制作しましょう。

［レイヤー］パネルの下部にある［新規レイヤーの作成］をクリックして［木のシルエット］などわかりやすい名前をつけて新たにレイヤーを作成したら、［ペンツール］を使ってあのシルエットを描いていきましょう 1。シルエットはどちらかの半面だけ描いたら 2 3 4。［リフレクトツール］を使って反転させてコピーを作ります。［リフレクトツール］をダブルクリックすると 5［リフレクトダイアログ］が表示されますので、［複製］にチェックを入れ、［コピー］をクリックします 6。左右の形を中心で合わせ、最後に［パスファインダ］パネルの［合体］をクリックすればきれいな左右対称のオブジェクトが揃います 7 8。



03 工程02で作った木のシルエットをガイドにしてテキストの文字組みを調整していきます。

シルエットに添わせるようにしながら、目立たせたい文字や文章の区切りなどにも考慮して改行していきましょう 1 2。フォントのサイズと行送りのポイント数も同じ値にしてひとつのかたまりのように見せます。文章を読ませるための行間としては狭いのですが、今回は木のシルエットを目立たせることを優先します 3 4 5 6 7 8。文字の間隔を詰めるために［文字］パネルの［カーニング］を［自動］にして、さらに［選択した文字のトラッキングを設定］を［−25］にして全体を整集させます 9 10 11 12。

04 文字の微調整をします。

句点［。］や読点［、］がある行は微調整をしましょう。キャプチャー画像の［しまうことになる。］と［しかし］のように、句点のあとが空いて見える場合などに個別に文字間を調整したい場合もカーニングで調整するといいでしょう 1。句点のあとにカーソルを合わせて［文字］パネルの［カーニング］を［−400］と入力しました 2 3。また行末に句点があった場合は左寄りに見えてしまいますので 4、その行だけインデントで調整します。行頭にカーソルを合わせて［段落］パネルの［1行目左インデント］に［12］と入力して、行全体を右側に寄るように調整します。気になる行や文字間があれば微調整していきましょう 5 6 7 8。

05 今回の作例はシンポジウム案内のチラシを想定しているので、日時や場所、連絡先などの情報も入力します 1。文字にアウトラインをかけてから複合パスを作成し、グラデーションで彩色し、レイアウトしたら完成です 2 3。

FIN

和風の配色デザイン

34

和風のカラーで作成されたWebサイトデザインを作ります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

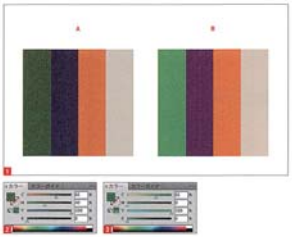
基本ルール

配色とイメージ

デザインにおいて、色は大きな影響力を持っています。色の基本的な仕組みや役割を理解して、そのデザインの目的に合う配色はどのようなものなのか、効果的な配色を考える必要があります。また色はそれぞれ固有のイメージを持つだけでなく、その組み合わせによって、特定のイメージを想起させることができます。例えば、赤・白・青とあればフランスのトリコロールカラーですし、オレンジ（柿色）、緑、黒とすれば、歌舞伎の引き幕を思わせ、和のイメージを強調することができます。

01 和風の配色について検討してみます。

暖めの黄、穏やかな茶系、くすんだ緑は「和」のイメージを例す配色です。1 の、A とはどちらを知たような配色ですが、両者で使われている緑色を、[カラー] パネルで比べてみると、A は [C:65 M:40 Y:100 K:0] 2、B は [C:65 M:0 Y:100 K:0] 3 でした。A は、M（マゼンタ）が加わったことで、少しくすんだ色味になっていることがわかります。



one point

日本の伝統色には、「濃紺（さんご）色」「萌葱（もえぎ）色」「古代紫」など、それぞれに美しい名前がつけられています。数百種類におよぶ日本の伝統色は、専門の書籍やWebサイトでも調べられます。

02 同様に他の色を確認してみます。

A 同様いずれも3〜4色で構成されており、そのためにくすんで見えていることがわかります。これらの印象の違いは、彩度が違いです。一般には見えませんが、彩度が低いほうが落ち着いた雰囲気を出しやすい傾向にあります。ということで、AT作成した色味を元にサイトを作成していきます 1 2 3 4 5 6。

one point

日本は湿度が高いので、空気中の水蒸気が光を反射して風景は白っぽくくすんで見えます。そのため彩度の低い中間色が好まれてきたとも言われています。

03 まず全体的な構成を行います 1。

そのうえでアクセントとして色味を足していきます。画面の上下に、背景で使用している 2 を少し濃くしたページ の色 3 を使って巻物のような雰囲気を演出しましょう。[長方形ツール] で長方形を作成して、上下に配置します 4 5。

04 飾りを入れていきます。

右のスペースに 6 7 8 配色で、[直線ツール] または [ペンツール] を使い、細い線を引きます 9。これらの色味は「メニュー」「お知らせ」を作る際にも活用します 10。

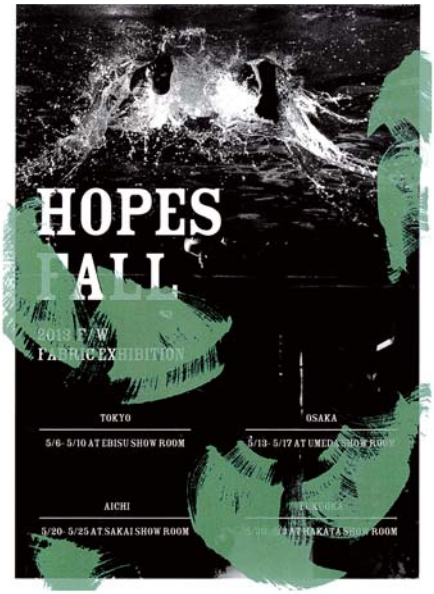
05 最後に、あしらいとして背景に円形を利用した図形を配置します。

工程03で使った事の色で、円を描きます。[ウィンドウ] メニュー→[透明] を選択してパネルを表示させ、[描画モード：乗算] を選び、完成です 11。

FIN

one point

1 は配色のバランスなどを変えてみた例です。落ち着いた色味を使用しても、このようにポップな印象になってしまう場合もあります。色味を前面に押し出すのではなく、アクセント程度に使用すると、品よくまとめることができます。



モノトーンベースに一部だけ色を使ってインパクトを出す

35

モノトーンの中に一部だけ色を使うというアイデアで印象的なデザインになります。

APPLICATION: Photoshop CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eraku

01 インパクトのあるフライヤーを作っていきます。

まず、1 のようなデザインのフライヤーがありますが、いったん完成原稿として入稿されたものですが、これに手を加え、インパクトのあるデザインに変えていきたいと思います。完成画像を元にした作業となるので、Photoshopで作業をしていきます。

02 全体をモノトーンに変更します。

まず［白黒］の機能を使って画像をモノトーンに変えます。［白黒］を使うと、元の画像の色味を活かしながら画像を白黒化することができます。［イメージ］メニュー→［色調補正］→［白黒］と選択し、表示されたウィンドウ 2 のパラメータを調整します。たとえば［ブルー系］のパラメータを調整すると、元の画像のブルー系の部分を明るくしたり、暗くしたりすることができます。これによってモノトーン画像の印象を大きく変えることができます 3。

03 トーンカーブを使って、色を調整します。

さらに［トーンカーブ］を使って 4、全体の色味を暗めに調整しました 5。なお、［白黒］［トーンカーブ］などの色調補正の工程は、調整レイヤーで行うと、あとから調整をやり直すことができるのでおすすめです。

04 素材を用意します。

次に、紙にマジックで粗めに線を引いたものを用意し、スキャンして取り込みます 6。これを全体の雰囲気作りの素材に活用します。

05 素材の使用部分だけを取り出します。

［イメージ］メニュー→［モード］→［グレースケール］と選択して、画像をモノトーンにし、さらに［トーンカーブ］でコントラストを強めます 7。そのうえで、［選択範囲］メニューの［色域指定］の機能を利用して 8、白色部分だけを選択して取り除くと、9 のような画像ができあがります。

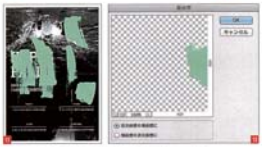
06 画像をダブルトーン化します。

工程05でできた画像を［イメージ］メニュー→［モード］→［ダブルトーン］と選択してダブルトーン化します。色味は［R: 60 G: 255 B: 166］としました 10。

07 ［極座標］を使っておもしろい効果をつけます。

作成した画像を、元の画像に貼りつけます 11。［編集］メニュー→［自由変形］を選んで大きさを調整したら、［フィルター］メニュー→［変形］→［極座標］と選んで調整し 12、筆でペイントしたような感じに変形させます 13。貼りつけた画像の不透明度を60%に調整して完成です 14。

FIN



白と黒のコントラストで大胆&クールに遊ぶデザイン

もっとも明度差が大きく目に飛び込みやすい白と黒を使って、大胆そしてクールにレイアウトしてみましょう。
白と黒のコントラストはデザインをシャープに印象づけます。

APPLICATION: Adobe Illustrator CS4　CREATOR: Shingo Suzuki (magnet design)

基本ルール

白と黒のコントラスト

デザインで使われるコントラストとは、主に明度の差や色彩などの対比のことです。Photoshopの補正などでもなじみがあるように、コントラストを上げていけば画像の明るい部分と暗い部分の差が大きくなりハッキリしてきます。逆にコントラストを下げていくと明暗の差は縮まっていきますが中間の調子は多くなります。工事現場で使われる黄色と黒の標識からもわかる通り、人間の目には色相の差よりも、明度の差がハッキリしているもののほうが認識しやすいという特徴があります。青色や青緑のように各色相の中でも明度の差が大きい色はありますが、最たる明度差の組み合わせは白と黒になります。

オリジナル画像

コントラストが高い

コントラストが低い

工事中の看板

01 演劇のチラシを想定して、タイトルを入力していきます。

タイトル「熊猫の悪夢と貘の憂鬱（ばんだのあくむとばくのゆううつ）」を［長方形ツール］で描いた A4 紙面の矩形の上に、［文字（縦）ツール］を使って入力します。作例で使用するフォントは、文字が重なったときのラインの重なりかさを考え［DFP 勘亭流］を選択、［句］や［と］の接続詞は変化を持たせるために［リュウミン Pro U-KL］を選びました。

36

02 入力し終えたテキストは、加工がしやすいように［書式］メニュー→［アウトラインを作成］をかけておきます。

［塗り］の設定は、コントラストを際立たせるために リッチブラック（C：40%、M：40%、Y：40%、K：100%）にしておきます。［オブジェクト］メニュー→［グループ解除］で1文字ずつ選択できるようにしたら、［拡大・縮小ツール］を使って、紙面に対して少しはみ出すくらいにきさを調整し重なるようにレイアウトしていきます。ここではビジュアルとして見せるための文字デザインと割り切って、大胆に構成していきましょう。

03 文字を白にするには［パスファインダ］パネルで設定します。

重なるようにレイアウトした文字と、A4 紙面の矩形の両方を選択したら、［パスファインダ］パネルから［中マド］を Option（Alt）キーを押しながらクリックします。すると背景になる紙面の矩形が黒、文字が白、さらに重なった部分は黒で表現されます。このとき Option（Alt）キーを押さないでクリックすると、白い部分と黒い部分がすべて分離されてしまい、あとで編集できなくなってしまうので注意しましょう。

04 レイアウトを微調整して完成です。

レイアウトの微調整は［ダイレクト選択ツール］を使って個々の文字を選択すれば、移動したり拡大・縮小できますので、全体の白と黒のバランスをとりながら修正していくといいでしょう。画面の上部に置きやするために小さ目を入れたタイトルと、下部に日時や場所などの情報を入れます。作例のようにレイアウト上、文字と重なる情報部分などがあれば、あらかじめアウトラインをかけて一緒にやマドを適用させておきましょう。紙面中央にアクセントで赤のキャッチコピー「白黒決闘をつけるのは―」を入れて完成です。

FIN

37

ラインを使って飽きの来ないデザインを作る

ラインを多用して、雑誌の連載用のフォーマットとなるデザインを作ります。

APPLICATION Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku

基本ルール

デザインフォーマットとは

雑誌の連載ページやシリーズで発刊される書籍のレイアウトでは、「デザインフォーマット」を作って、ひとつのデザインを使い回すことがあります。一度作ったものは、何度も使われることになるので、奇抜だったり、流行の要素が強かったりするものより、コンテンツ自体が目立つシンプルでベーシックなデザインが求められますが、毎回違しで使えて、アクセントとなってくれるような要素があると、連続性が感じられてよいでしょう。今回は、手書き文字をポイントとしています。

01 雑誌の連載ページをデザインしてみましょう。

長く使われるフォーマットとなるので飽きにくい、シンプルなものにしようと思います。まずは左開きの雑誌であることを前提に、まずはノド、小口、天地の余白、さらにはテキストエリアを検討し、全体の版面を作成します。版面ができあがったら、見出しを検討します。今回はシンプルなコピーなので少しゆったりめに、ただし、埋もれてしまうことがないように中央に配置します 1。

one point

版面になるガイドは、[塗り：なし] で [長方形ツール] を選択し、画面をクリックすると現れるボックスで数値を入力して長方形を作成し、[表示] メニュー→[ガイド]→[ガイドを作成] で、作成できます。

02 アクセントをつけていきます。

コピーだけではシンプルすぎるので、[表組ツール] で上下にラインを引くことでアクセントをつけました 2 3。

one point

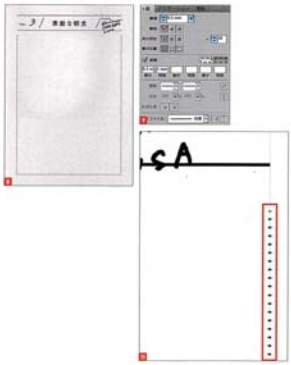
[表示] メニュー→[ガイドにスナップ]、[ポイントにスナップ]、[スマートガイド] にチェックを入れておくと正確なラインを引くことができます。

03 連載（シリーズ）企画なので、印象に残るようなちょっとした要素を追加したいと思います。

シリーズの回数や、その回のタイトル（ここでは「場所」）を記すスペースを作り 4、そこには手書き文字を載せようと思います。手書き文字 5 をスキャナーで取り込み、レイアウトしますが、ラフな感じを出すために、空白にきっちりと置くのではなくラインと重ねました 6 7。

04 版面に沿って傍らとなる点線を引きます 8。

点線は [線] パネルで [線種] にチェックを入れて設定します。[線分] と [間隔] の長さを指定して、狙った点線にします 9 10。



05 小見出しは縁取り文字にしました 11。

[文字ツール] で小見出しを入力したら、文字を選択して [アピアランス] パネルで、[線：黒] [塗り：なし] に設定します 12。[アピアランス] パネルで縁文字を設定すると、一般的に使われる、[カラー] パネルから色や線を設定する方法と違って、線が内側に食い込み、文字自体がつぶれてしまう 13 ようなことにならずにすみ、最後に全体の図版を配置して完成です 14。

FIN

38

インパクトのある見出しデザインとは

雑誌の見出しで目を引く方法を考えます。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku
引用：「イノベーション」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』 2013年4月7日（日）11:10 UTC、URL: http://ja.wikipedia.org

基本ルール

見出しの役割

見出しは、パッと見たときに目に飛び込んできて、読んでみたくなるデザインにする必要があります。ひと目見ただけで内容がわかるフォントとサイズを選び、印象的なデザインにしましょう。小さすぎる書体やわかりにくいデザインは、特別の意図がない場合は避けるべきです。インパクトを与える見出しタイトルにするには、さまざまな方法がありますが、今回は誌面からわざとはみ出る要素を加え、ラインや枠囲みをプラスして勢いを出してみます。

01 左開きの雑誌の誌面を想定し、デザインを検討します。

まずはノドや小口、天地の余白に沿ってテキストエリアを作成し、全体の版面（はんづら）を決定します1（雑誌のフォーマットは事前に決められていることも多いです）。今回は見出し（タイトル）のインパクトを強くすることを念頭に置き、ページ上部のスペースを広めにとっています。

02 タイトル部分の書体は太めのゴシック体としました2。

［文字ツール］でタイトル部分を入力します。よりインパクトを強めるために、「かたまり感」を高めることにします。文字全体を選択した状態で、[Option]+[Ctrl]キー（Windowsでは[Alt]キー）を押しながら[←]キーを押すと、文字の間隔を調整できます。この手法を「カーニング」と呼びます。これを使って字間のスペースを狭めていきます3。力強いイメージになりました。

03 細部を調整します。

カーニングの際に注意したいのが、テキスト全体を一気に文字詰めすると、4のように、文字間が周りとは異なる部分が生じる点です。一般に「カタカナ>ひらがな>漢字」の順に文字の間隔が狭くなっていきます。ここを調整するかしないかで、仕上がりのクオリティがまったく違ってきますので、個々に文字間を調整します。サブタイトルや小見出しも同じ書体で入力します5。

04 さらにインパクトを強めていきます。

タイトル部分を選択し、隅のアンカーポイント付近に持ってくると出てくる回転のマークを動かして、文字を斜めにします。［直線ツール］でアンダーラインも引きます。さらに、誌面に対しギリギリまで拡大しました6。ここで注意すべきは、誌面のノド側（綴じが来る側）は仕上がりでは失われる（綴じの関係上見える紙面が狭くなる）ということです。ノド側は、本文はもちろん、タイトルもあまり寄せ過ぎないように注意しましょう78（赤の楕円に注目してください）。［長方形ツール］で、タイトル部分全体を囲みます9。さらに背景画像を敷いて完成です10。

FIN

39

落ち着いたページ見出しのコツ

真面目なデザインが求められる業界向きの上品なデザインを作ります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku
引用：「イノベーション」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』 2013年4月7日（日）11:10 UTC、URL: http://ja.wikipedia.org

基本ルール

落ち着いた見出し

余白や文字間のバランスが印象を大きく左右します。広めの間隔でレイアウトすることで、上品さや堅実さを演出することができます。

01 右開きの雑誌誌面をデザインしていきます。

縦組みで、堅実な印象の誌面を制作していきましょう。見出し用のテキストとして用意されたのは1。優先順位を考えつつ、書体のサイズは2のように決めました。

02 書体を変更して、バランスを調整します。

ゴシック体には、どちらかというとカジュアル、ポップ、モダンといったイメージがあるので、明朝体に変更して誠実さを演出していこうと思います。まずはタイトルからデザインしていきます。書体を変更し、全体のバランスを調整します3。さらに他の要素も明朝体に変更します。ゆったりと間隔を空けてレイアウトしたのは、余白を多めに設けることで上品さを出すことが狙いです4。要素間の間隔にも気をつけます。要素間（青丸）よりも行間（緑丸）が広くなるようなことのないよう注意しましょう5。

03 さらに、本文や画像を足していきます。

全体のバランスに配慮しながら位置を決めます6。文章冒頭の文字「イノベーション」の「イ」は、サイズを拡大しました。これは、「ドロップキャップ」という、アイキャッチの効果がある手法です。作り方としては、テキストエリアボックス内に書かれた本文と、その頭文字のみのテキストを用意します7。次に、頭文字の背景に正方形を作成し、その正方形の中心に文字をレイアウトします8。できた正方形と文字が最前面にくるようにテキストエリアボックスの右上と重ねます9。ここで正方形のみ選択した状態で［オブジェクト］メニュー→［テキストの回り込み］→［作成］を適用してできあがりです1011。

04 見出しの周りに飾りをつけます。

見出し周りがの余白が広すぎて、間が持たない印象があります。そこでシンプルな飾りを設けることにしました。［直線ツール］または［パスツール］でラインを2本引いて完成です12。

FIN

40

ストリートテイストのタイトル文字

荒れた質感を活かしたストリートテイストの見出しを作ってみます。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5 Photoshop CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku
引用：「サブカルチャー」[フリー百科事典　ウィキペディア日本語版]　2013年3月9日(土)06:00 UTC、URL: http://ja.wikipedia.org

基本ルール

ストリートテイストの表現

若い男性向けのデザインで用いられることが多いストリートテイスト。街角のストリートアートを連想させる、ラフでfar強いメッセージ性が感じられるグラフィックで構成していきましょう。具体的には、インクの飛び散ったような素材や、かすれさせた要素を入れ、モノトーンや原色系の配色で構成します。現代的でカジュアルなイメージにしたいので、見出しのフォントは明朝やセリフ体ではなく、ゴシック系やサンセリフ系を選びましょう。

01 文字の字間を詰めて印象を強めます。

ストリート感を出すことが目的なので、雰囲気が出やすいための ゴシック書体「ゴシックMB101」を選び、[65pt] で入力し、文字間隔を極端に狭めて印象を強くします。字間を詰めるには文字を選択し、[alt] [Space] +[←] キーを押します。

one point

ゴシック体は、縦横の太さが均等で、男性的なイメージをもちます。モリサワの「ゴシックMB101」は太いウエイトは、力強く骨太なイメージで、雑誌のタイトルやコピーによく使われます。

02 日本語部分にアクセントを付け、ステンシルのような雰囲気を出していこうと思います。

編集しやすいよう、元のタイトル文字を選択し、[オブジェクト] メニュー→[ロック] をかけておきます。[ペンツール] を用いて、のように書体の形状に沿って太めのラインを引き、書体の一部を切り離しています。本国のステンシルのように、個に属の文字部分を切り抜いたようにも、抜け落ちる箇所がないようにします。全体的には、のように線を引きましたが、わかりやすく変更に色をつけて表示しています。

03 ラインをオブジェクトに変更します。

工程02でほぼラインをすべて選択し、[オブジェクト] メニュー から [パス]→[パスのアウトライン] を選択して、ラインを[面(線の形をした図形)]に変換します。

04 文字の黒い部分のみをオブジェクトとして残します。

元の文字のロックを解除したら、いずれかの「文字」と、その文字に重なっている「変換済みのライン」を選択し、[パスファインダー] パネルの [形成] で [前面オブジェクトで型抜き] をクリックして適用します。すると黒い面のみがオブジェクトとして残ります。この工程を他の文字でも行います。続けて、文字の上下を微調に少しずつずらし、文字に勢いを付けます。英文と組み合わせて文字のベースは完成です。

41

内容とリンクさせた個性的な見出し

英文フォントをアレンジして印象的な見出しを作ります。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5
CREATOR: Masaya Eiraku
引用：「言語」[フリー百科事典　ウィキペディア日本語版]　2013年6月4日(日) 09:25 UTC、URL: http://ja.wikipedia.org

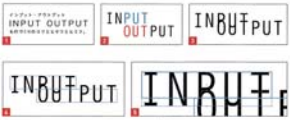
基本ルール

見出しと内容

見出しのデザインは、本文を読みたくなるようにユーザーにわかりやすいものでなくてはいけませんが、目を引き、興味を持たせることも非常に重要です。用意された文字をただ並べるのではなく、ひと工夫して、内容とリンクさせつつインパクトにあるデザインにすると一気に注目度が高まります。今回は、欧文フォントをアレンジしておもしろい効果をプラスしています。

01 タイトルの文字要素を、変形させていくことにします。

[文字ツール] で、フォント [Orator Std] で入力してみます。そのまま横に並べると横に長すぎるので、単語ごとに上下にずらして並べてみます。すると [PUT] と [OUT] が似た文字列であることに気がつきました。これをデザインに組かていきたいと思います。



02 をグラフィカルにレイアウトしていきたいと思います。クリッピングマスクの機能を使って、単語の一部をマスクしたいと思います。

まずはそれぞれの組から、同じ高さの表方形を作成します。まず [INPUT] の文字と作成した表方形を選択します。そのうえで [オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[作成] と選択すると、四角形の外側がマスクされた状態になります。[OUTPUT] 側も同様に作業したら、[INPUT] と [OUTPUT] の間隔を少し空けます。

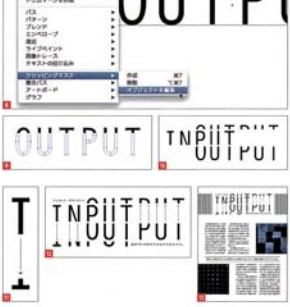
03 装飾を加えていきます。

[OUTPUT] を複製したら、[オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[オブジェクトを編集] を選択すると、マスクの位置を調整することができます。矢印キーで上下させ、下の [OUTPUT] でマスクされた部分だけを表出させた状態にします。作成したオブジェクトは、図のように [INPUT] を挟みこむように配置します。同様にINPUT側も作業をしてください。

04 最後に、上下をつなぐように点線と三角形を描き、ストライプの飾りで強調して完成です。

[直線ツール] でラインを引いたら、[線] パネルで、[破線] にチェックを入れ、[線分：0.5mm] で点線を描きます。[多角形ツール] で三角形をこちらで加えます。最後に、日本語のサブタイトルを加えました。ストライプの飾りは、[直線ツール] でラインを両端にコを引き、2本とも選択して、[オブジェクトパス]→[ブレンド]→[作成] で作ります。うまくいかない場合は、[ブレンド]→[ブレンドオプション] で [ステップ数] を調整しましょう。

FIN



文字に影や質感をプラスする

チラシの文字部分にダークでホラーな演出を加えてみたいと思います。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.1 Photoshop CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

42

01 あらかじめ用意されたのチラシに手を加え、優先順位の高い情報である「タイトル」「リード文」「公開予定時期」を目立たせたいと思います。

中身との関連を考え、ダークでホラーな質感をプラスしていくことにします。なお、一番上にあるキャッチコピーも本来であれば目立たせなければならない要素ですが、現状で十分目立っているので今回は除外します。

02 データはIllustrator形式でしたが、Photoshopを使って加工をします。

まずPhotoshopで新規書類を作成します。書類サイズは仕上がりサイズの[A4]、[画像解像度：300dpi]とします。そのうえで書類に[レイヤー]メニュー→[新規塗りつぶしレイヤー]→[べた塗りレイヤー]と指定して、黒色を指定し、黒色のベタ色を敷きます。

03 そこに、元データ上でコピーした文字部分をペーストします。

ペースト形式は[ピクセル]とし、確定時に表示されるダイアログで[配置]を行ってください。次に、レイヤーを別々に3つ作成し、[タイトル]「リード文」「公開予定時期」の部分をそれぞれコピー&ペーストし、それぞれ別のレイヤーに分けます。

04 まず「タイトル」の文字の輪郭で選択範囲を作成します。

[クイック選択ツール]などを使ってもいいのですが、レイヤーパネル上のサムネイルを[Ctrl]キーを押しながらクリックしてもも輪郭の選択範囲を作成することができます。選択範囲をそのままにした状態で、新規レイヤーを作成し、赤色で塗りつぶします。「リード文」「公開予定時期」のレイヤーも同様に作業してください。

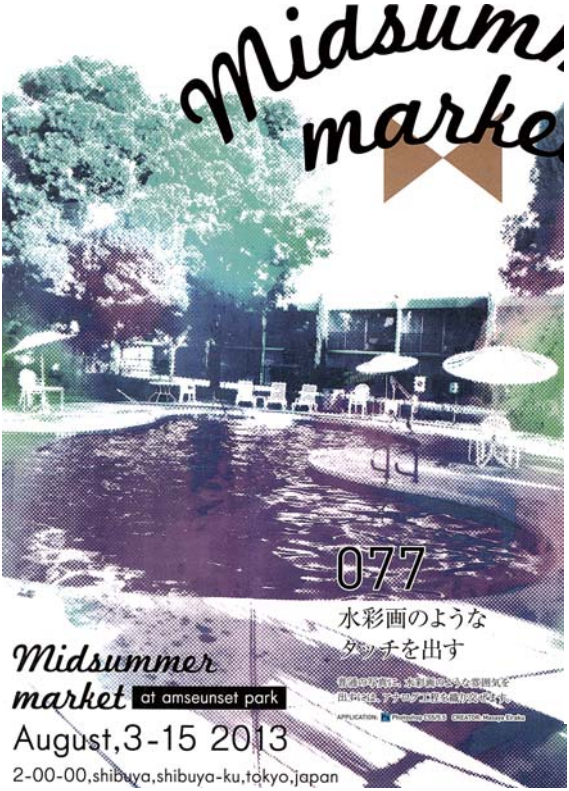
05 赤く発光するような効果を出していきます。

それぞれの赤文字レイヤーを、元の白文字レイヤーの背面に移動したら、[レイヤー]パネルでタイトルの赤文字レイヤーを選択し、[フィルター]メニュー→[ぼかし]→[ぼかし(ガウス)]と選択し、ぼかしをかけます。すると、白文字の背後に、ふわっとした赤い影が現れます。影がちょっと濃いと感じる場合は、赤文字のレイヤーを複製するといいでしょう。「リード文」「公開予定時期」にも同様の作業を行って、影を加えます。ただし、文字のサイズの違いがあるので、「リード文」はぼかしを「4pixel」、「公開予定時期」は「6pixel」にしました。

06 最後に文字にかかれたようなホラーテイストの加工をほどこします。

まずタイトルの白文字のレイヤーを選択したら、[レイヤー]メニュー→[レイヤーマスク]→[すべての領域を表示]を選択し、レイヤーマスクを作成します。[レイヤー]パネルで作成したレイヤーマスクが選択された状態で、黒色のブラシでなぞると、なぞった部分がマスクされ、下部のレイヤーによる赤色が表出します。工程06で使ったブラシは、[ブラシプリセット]パネルで「ドライブラシ（濃い濃度）」を選択し、[ブラシ]パネルで「間隔」などを調整したものです。全体的にかすれの表出を加え、元の画像に配置し直したら完成です。

FIN



01 元画像1をPhotoshopで加工をして、水彩画のようなイメージに変えたいと思います。まずは明るくメリハリをつけます。

まずは［イメージ］メニュー→［色調補正］→［トーンカーブ］を使って、明るさとコントラストを上げます2 3。

02 グラデーションレイヤーで色味をプラスします。

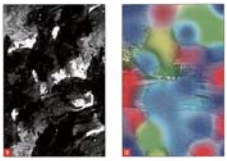
次に、［レイヤー］メニュー→［新規塗りつぶしレイヤー］→［グラデーション］と選択し、薄緑（C58 Y53）から黄色（C6 M7 Y75）へと変化するグラデーションレイヤーを作成します4。［レイヤー］パネルでできたレイヤーを選択し、描画モードを［ハードライト］とし、［不透明度］を［70%］とします5。すると画像にグラデーションレイヤーの色味が載ります6。

03 ここから水彩画のような雰囲気を出していきたいと思います。

元画像のレイヤーを選択して、［レイヤー］メニュー→［レイヤーの複製］を選んで複製したら、［レイヤー］パネルで最上段に移動させます。そのレイヤーに、［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［白黒］、［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［トーンカーブ］を適用してハイコントラストのモノトーン画像を作ったら7。描画モードを［スクリーン］に設定します。すると画像8のように変化します。

04 だいぶ感じが出ましたが、さらに工夫を施して、より雰囲気を出してみたいと思います。

まずは絵の具で描に9のような模様を描いてスキャンします。カラーで描いてスキャンしてからモノトーンに変換してもかまいません。取り込んだら、元画像とは別の画像として保存しておきます。



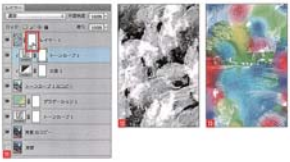
05 マスクを作成します。

元の画像に戻って、新規レイヤーを作成したら、太めのブラシを使って10のように、色をランダムに塗ります。そのうえで、［レイヤー］メニュー→［レイヤーマスク］→［すべての領域を表示］と選択してマスクを作成します（この段階では何もマスクされていないため、画像に変化はありません）。

43

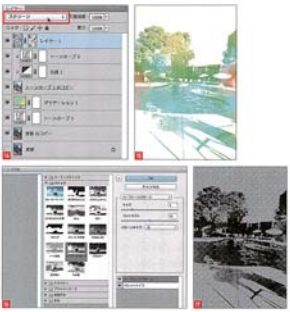
06 色調を反転させます。

［レイヤー］パネルで、作成したマスクを［alt/option］キーを押しながら選択すると11、マスクを表示編集（モード）になりますので、ここに、工程04で取り込んだ画像をコピー&ペーストし、［イメージ］メニュー→［色調補正］→［色調の反転］と進んで画像の色調を反転させます12。［レイヤー］パネルで、マスク以外の部分をクリックすると、マスクを表示編集（モード）から離れるので画像を確認してみると、画像は13のようになります。



07 描画モードを変え、画像にフィルターをかけます。

そのうえで、レイヤーの描画モードを［スクリーン］にします14。すると、元の画像に半透明の風合いが反映されます15。ここから仕上げに雰囲気を出していきます。［今まで作成したレイヤーすべて］を複製し、統合します。レイヤーは［今まで作成したレイヤー］にプラス［統合した画像］です。ハーフトーンは［描画色］と［背景色］によって色が変わりますのでそれぞれ［黒］［白］にしておきます。統合したレイヤーに［フィルター］メニュー→［フィルターギャラリー］→［ハーフトーンパターン］16を適用します17。



08 さらに描画モードを変え、色合いを調整し、文字を配置して完成です。

工程06で作成したレイヤーの描画モードを［オーバーレイ］に設定すると、印象的の絵点のような雰囲気が加わります18。最後に、［色相・彩度］や［トーンカーブ］の調整レイヤーで仕上げ、文字を配置して完成です19。

FIN

44

大胆なトリミングやフレーミングで見せる写真テクニック

大胆なトリミングやフレーミングで被写体の魅力を
引き出してみましょう。必要な部分だけを切り取る
ことによって、写真の狙いが伝わりやすくなります。

APPLICATION: Ai Illustrator CS4 Ps Photoshop CS4 CREATOR: Shingo Suzuki [magnet design]

基本ルール

トリミング

トリミングとは、写真を撮影後にPhotoshopなどの画像編集ソフトで必要な一部分だけを切り取ることです。また、撮影時に適切な構図で被写体を切り取ることをフレーミングといいます。どちらも必要な一部分を切り取ることは同じですが、トリミングは撮影後に行うのであとから構図を縦や横に変更できたりなど自由度は広がりますが、切り取ったあとの画像は切り取る前と同じ大きさで使うと劣化の原因になります。またフレーミングは撮影時の直感をストレートに表現できますが、カメラやレンズなどの機材や環境に大きく左右されます。どちらの方法でも、伝えたい主題やそれを助ける要素以外の不必要な部分を切り取ることによって、被写体に臨場感を持たせ、狙いをハッキリと伝える写真になります。

ノートリミング　縦構図にトリミング　横構図にトリミング

01 まずは作例のモチーフ「ブロッコリー」を撮影します。

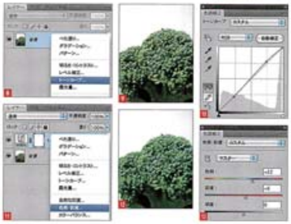
全体と部分で撮影し、比較してみましょう。全体が写った写真はブロッコリー自体と、それが置かれた状況までの客観的な情報が伝わります 1。一方、大きく一部分をフレーミングした写真は、それがブロッコリーであることはわかりにくくなりますが、質感が上がり、臨場感が出て、情感に訴えるような主観的なものになります 2。作例は雑誌の表紙に使用する目的で狙いがハッキリしているので、撮影後のトリミングではなく大きく寄ったフレーミングで撮影しました。接写の場合はカメラをチューリップマークなどで［至近距離（マクロ）撮影］に設定しましょう 3 4。

02 同じような接写でもボケの見え方によって、臨場感や空間の奥行感が大きく変化します。

5 の写真では、手前も奥も比較的全体にピントが合っているのに対して、6 の写真では中央部分にピントが合っていますが、手前や奥はボケています。これは被写体に対してのアングルや、絞りの開け具合によって被写界深度が変わるためです。絞りを開ける（F値を小さくする）と被写界深度が浅くなり、ピントを合わせた前後はボケやすくなります。アングルを考えて接写し、さらに絞りを開けて撮影すると奥行きが深く感じられます。

03 撮影した画像をPhotoshopで開き、ブロッコリーが新鮮に見えるように補正をかけましょう。

［レイヤー］パネルの［塗りつぶしまたは新規調整レイヤーを作成］から［トーンカーブ］でコントラストを調整します 7 8 9。さらに同じく［塗りつぶしまたは新規調整レイヤーを作成］から［色相・彩度］を選び、色味を調整し鮮やかにしましょう 10 11 12 13。



04 補正が済んだ画像はIllustratorで［ファイルメニュー］→［配置...］でファイル名を選択して配置しましょう 14 15。

画像は雑誌の表紙に使用する大きさに合わせて、［オブジェクト］メニュー→［クリッピングマスク］→［作成］で改めてトリミングします。雑誌タイトルや見出しなどの情報を［文字ツール］で入力し、画像とともにレイアウトして完成です 16 17 18 19 20 21 22 23。

FIN

45

大胆なトリミングと文字組みで洗練された雰囲気を表現

大胆な写真配置と、動きを出した文字タイトルで
洗練された大人の雰囲気を出してみましょう。
全体に青色を載せることでレトロな雰囲気を強調します。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5 Ps Photoshop CS5 CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

01 紙面のサイズを決めて、画像のトリミングを決めます。

Photoshopで、［ファイル］メニュー→［新規］で［幅：2098px］［高さ2770px］［解像度：300dpi］の新規ファイルを作成します。写真を［ファイル］メニュー→［配置］で配置します。［クイック選択ツール］やなどで人物だけを選択し、⌘（Ctrl）+C、⌘（Ctrl）+Fで複製します。背景レイヤーは、［描画色：黒］にして［塗りつぶしツール］で画面クリックで、黒く塗りつぶします。写真画像は［自由変形ツール］で斜めに傾け、下が開くように配置します 1 2。

02 画像を加工して、大人っぽくレトロ画像に仕上げましょう。

切り抜き画像を複製し、［レイヤー］パネルで、［描画モード］を［スクリーン］にし、さらに複製し、［描画モード：スクリーン］をもう一度かけます。さらに複製し、［描画モード：オーバーレイ］にします。これは、暗い画像なので、［描画モード：スクリーン］等を複数回かけることで、全体を一旦明るくしすぎなぐらいに調整しています。明るくしたうえで、［描画モード：オーバーレイ］をかけると［イメージ］メニュー→［色調補正］→［明るさコントラスト］でやるより、自然な感じにコントラストの強い画像になります。サックスの朝顔管の内部は、黒くつぶれるのをさけるためマスクをかけます。［ブラシツール］でマスクをかける部分を丸く塗りつぶしてから、［レイヤー］パネル下部の［レイヤーマスクを追加］ボタンをクリックします 3 4 5 6 7 8。

03 さらに色合いを調整していきます。

レイヤーを結合し複製します。［レイヤー］パネルで［描画モード：ソフトライト］にします。［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［レンズフィルター］で、［カスタム：水色］［適用量：100%］にします。さらに、［レイヤー］メニュー→［新規調整レイヤー］→［色相・彩度］で［彩度：−77］にします 9 10 11 12 13。

04 水色と濃紺をプラスしていきましょう。

［レイヤー］パネルの最上部に［レイヤー］メニュー→［新規］→［レイヤー］を作成し、薄い水色で塗りつぶします。［レイヤー］パネルで［描画モード：乗算］にします。同様にして、最上部に新規レイヤーを作成し、濃紺で塗りつぶし、［描画モード：スクリーン］にします 14 15 16 17。

05 ガイドとして引いた縦のラインに合わせて文字を配置しましょう。

Illustratorを開き、［ファイル］メニュー→［配置］で画像を配置します。［直線ツール］でランダムにラインを3本引き、⌘（Ctrl）+5でガイドにします。バランスを見ながら、ラインに合わせて文字を配置しましょう 18 19。

06 小さな文字の配置を、通常のセオリーとは逆に配置してみました。

一般的には、下部の空いたスペースに配置する小さな文字要素を上部の窮屈なスペースに持ってくることで、ジャズのジャケットのような雰囲気を出しました。あえて下部にスペースを作ったのがポイントです 20。

FIN

46

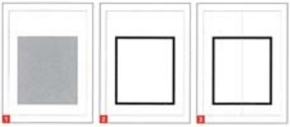
タイトルをセンターに配置したシンプルでスタイリッシュなデザイン

文字をシンメトリーな中央揃えにし、シンプルでスタイリッシュなイメージに仕上げます。

APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5
CREATOR: Hayato Ozawa [cornea design]

01 紙面の大枠と、写真を入れる枠を作っていきます。

Illustratorを開き、[ファイル] メニュー→[新規] で新規ドキュメントを作成します。今回は、A4サイズにしました。次に [長方形ツール] を選択、画面をクリックしてダイアログで [幅：178mm 高さ：228mm] の長方形を作成します。次に、写真の枠となる [幅：131mm 高さ148mm] の長方形を作成します。[線] パネルで太さを [14pt] とします 1 2 3。



02 文字をセンターに配置します。

⌘ (Ctrl) + R で定規を表示させ、真ん中にガイドを引きます。文字を入力し、センターに合わせます 4 5。

03 タイトル以外の文字は、あえてルールを無視して配置します。

タイトル以外の文字は、紙面からはみ出させたり、縦にしたりして配置します。ルールを無視することで、きれいにまとまりすぎな角版写真によるデザインに動きを加えます 6 7。

04 女性の画像を反転させ、印象的なビジュアルにします。

Photoshopで女性の画像を開きます。[イメージ] メニュー→[色調補正]→[色相・彩度] で彩度を下げます。レイヤーを複製し、[フィルター] メニュー→[ぼかし]→[ぼかし(ガウス)] をかけます。[レイヤー] パネルで [描画モード：オーバーレイ] にします。[レイヤー] パネル下部の [レイヤーマスクを追加] ボタンをクリックし、追加されたレイヤーマスクサムネイルを選択したら、[グラデーションツール] の [円形グラデーション] でクリックして、右端を黒く着色します。[イメージ] メニュー→[色調補正]→[諧調の反転] をふたつのレイヤーどちらにもかけます 8 9 10 11 12 13 14。

05 画像と文字を配置したら完成です。

Illustratorに戻り、[ファイル] メニュー→[配置] で女性の画像を配置します。内側の黒枠を選択し、⌘ (Ctrl) + C、⌘ (Ctrl) + F で同位置に複製します。黒枠のひとつと、女性画像を選択し、[オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[作成] でトリミングされたように表示されます。数字を入力し、配置して完成です 15 16 17。

FIN

47

抽象的なテクスチャの作成

Illustratorのフィルターを使って抽象的なテクスチャを作成します。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

01 あらかじめ用意された 1 のロゴに、テクスチャを加えることで、インパクトの強いフライヤーに仕上げようと思います。

まずは [書式] メニュー→[アウトラインを作成] を選択してアウトライン化したあと、コピー&ペーストで複製します。なお、複製したロゴはわかりやすいように塗り色をピンクに変更し、別の場所に移動してから作業を行っています 2。

02 [落書き] 効果をつけます。

[効果] メニュー→[スタイライズ]→[落書き] と選択、表示されたウィンドウ 3 で設定を行います（数値は書体の大きさによっても異なります。図を参考に設定してください）。すると 4 のように変換されます。

03 [ジグザグ] でオブジェクトをテクスチャにします。

さらに、同じ [効果] メニュー→[パスの変形]→[ジグザグ] を選択、5 のように設定を行ってさらに変形させます 6。

04 図形を分解します。

できあがったオブジェクトを選択し [オブジェクト] メニュー→ [透明部分を分割・統合] を選んでパス化したら 7、同じ [オブジェクト] メニュー→[グループ解除] を選択して 8、図形をそれぞれのオブジェクトに分解します。

05 [整列] パネルでテクスチャを散りばめます。

ここで [整列] パネルの [オプション] から、[水平方向に等間隔に分布] を適用すると、9 のようにオブジェクトが横長に整列します。

06 さらにテクスチャを印象的にしていきましょう。

工程05で作成したオブジェクトを、複製元の書体と重ねて配置し、[自由変形ツール] を使ってサイズを揃えます 10。そのうえでコピー&ペーストで複製します。複製した側を [回転ツール] を使って180度回転させます 11。

07 文字とテクスチャを合体させて完成です。

位置を調整したら、テクスチャと文字をすべて選択した状態で [パスファインダー] パネルで [中マド] ボタン 12 をクリックするとテクスチャつきのロゴができあがります 13。これを黒色の背景の上に置いて塗り色を白色にし、文字を配置して完成です 14。

FIN

01 紙面のサイズを決めて画像を配置します。

Illustratorを開き、[ファイル] メニュー→[新規] で新規ドキュメントをA4サイズで作成します。次に、[長方形ツール] を選択、画面をクリックしてダイアログで [幅:172mm 高さ:228mm] の長方形を作成します。次に [ファイル] メニュー→[配置] で画像を配置します。⌘+⇧+D、⌘+⇧+V+F で同位置に複製します。⌘+⇧+D+F で [環境設定] ダイアログを開き、[一般] [キー入力:10mm] に設定します。[ダイレクト選択ツール] で、側面のラインを選択し、矢印キーを押して、内側に10mmかさくします。同様にして、内側に10mm小さい長方形を作成します。[オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク]→[作成] で長方形の形に画像がマスクされました 1 2 3。

02 グリッドを作成します。

[直線ツール] で縦の線を引き、⌘+⇧+D、⌘+⇧+V+F で同位置に複製します。⌘+⇧+D+F の [環境設定] ダイアログで [キー入力:5mm] に設定し、矢印キーを押して5mmずらして配置します。この2本のラインを選択し、[オブジェクト] メニュー→[グループ] でグループ化します。これを4つ並べ、[整列] パネルの右下で [整列:選択範囲に整列]、[等間隔に分布:水平方向等間隔に分布] で図のように均等に配置します。横線も同じようにして、5mm間隔の線を均等に並べてグリッドの完成です 4。

03 グリッドに沿って文字を配置します。

先ほどのグリッドはすべて選択して、[表示] メニュー→[ガイド]→[ガイドを作成] でガイドにしておくといいでしょう。このガイド上部に合わせて、文字を入力し、配置します 5。

48

04 斜めの線を引き、文字を分割して色を変換し、反転させた画像を配置します。

図のように [直線ツール] で斜めの線を引きます。文字をすべて選択し、[書式] メニュー→[アウトラインを作成] でアウトライン化します。文字と斜めの線を選択し、[パスファインダー] パネルで、[分割] をクリックします。斜めの線の間の部分の文字を、白にします。Photoshopを開いて、最初の画像を開き、[イメージ] メニュー→[色調補正]→[諧調の反転] を実行します。Illustratorで [ファイル] メニュー→[配置] でこの画像を配置します。[長方形ツール] で、先ほど引いた斜めの線に沿ったひし形を作ります。[レイヤー] パネルで、反転した画像と、このひし形を選択し、[オブジェクト] メニュー→[クリッピングマスク] を実行すると、ひし形の部分だけ、反転画像が現れました。[レイヤー] パネルで、リンクされた反転画像を選択し、右斜め上にずらします。ガイドを消去して完成です 1 2 3 4 5。

FIN

one point

斜めの線に沿ったひし形を作るには、[長方形ツール] で長方形を作り、[選択ツール] で角のアンカーポイント近くに持っていくと表示される回転のマークで回転させます。[ダイレクト選択ツール] で角のアンカーポイントを選択し、個別に長さを変化させます。

立体的な装飾で重厚感を演出する

グラデーションの組み合わせで立体的な装飾を作成します。

APPLICATION: Ai Illustrator CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku
引用：「作家」『フリー百科事典 ウィキペディア日本語版』 2013年4月25日(火)21:07 UTC, URL: http://ja.wikipedia.org

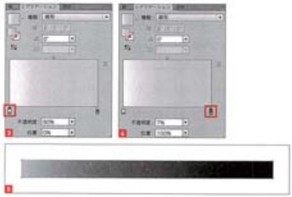
49

01 1のような誌面に装飾をプラスし、立体的な質感を加えたいと思います。

まずはタイトルのふたつの単語の対比を際立たせるために、[長方形ツール]を使って、太めのアンダーバーを描きます2。

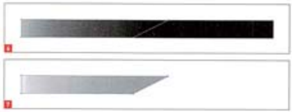
02 アンダーバーにグラデーションをつけます。

アンダーバーを複製し、複製前後の長方形ふたつが重なった状態で、上に重なっているアンダーバーにグラデーションを適用します。長方形を選択した状態で、[グラデーション]パネルで、左から右に、白60% 3 から黒7% 4 へと変化するよう設定します5。



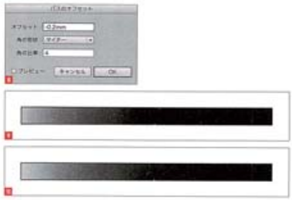
03 アンダーバーを台形にします。

グラデーションをかけたアンダーバーを、[ダイレクト選択ツール]を使って6のような台形に変形させます。背景を隠し、台形だけを表示させたのが7です。



04 さらに立体的に見えるよう加工します。

まず工程03で変形させた図形だけを選択し、[オブジェクト]メニュー→[パス]→[パスのオフセット]を適用し8、内側に向けてサイズを若干小さくします9。変形前の図形はいったん別の場所に移動しておいてください。次に、重なった下側のアンダーバーにグラデーションを適用します。左は黒90%、右は黒100%に設定してください。すると10のように、エッジがはっきりします。

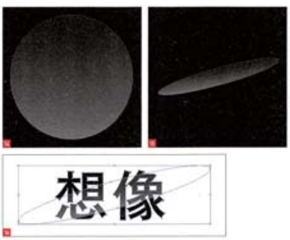


05 ハイライトを強調します。

工程04で移動したオブジェクトを最前面に移動し、[自由変形ツール]を使って11のように細長く変形します。これでさらに、ハイライトが強調された、立体的なバーになりました12。文字と組み合わせると13のようになります。

06 グラデーションとマスクを利用して文字も立体的にします。

次に、文字を複製してから、両者を選択して、[整列]パネルで[水平方向中央に整列][垂直方向中央に整列]で重ねます。[楕円形ツール]で円を作成し、グラデーションを適用します14(黒文字の上に載せるので、加減を見るため黒色の背景の上に作成しています)。そのうえで15のように変形、回転させます。文字の上にこの楕円を配置し、両者を選択したうえで、[オブジェクト]メニュー→[クリッピングマスク]→[作成]と選択すれば、文字にハイライトが反映されます16。



07 誌面にレイアウトします。

タイトル周りにもグラデーションを追加して完成です17。

FIN

写真を使ってすぐできる ワンポイントのデザイン

50

写真を元に、ワンポイント素材を効率よく作成します。

APPLICATION: Photoshop CS5/5.5　CREATOR: Masaya Eiraku

01 今回はレシピ紹介のページ1に、飾りとしてワンポイントのマークを入れたいと思います。

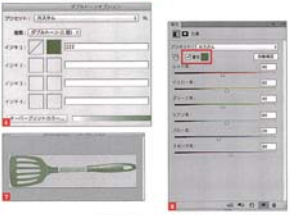
写真を元にマークを作成し、作業の効率化を図りたいと思います。素材となる画像2は自分で撮影してもいいでしょう。その場合は場合は切り抜きをしやすいように、単色の背景で撮影します。

02 まず写真の粒子を粗くします。

画像をPhotoshopで開いたら、[クイック選択ツール] 等を用いて、必要な部分の選択範囲を作成し、新規レイヤーを作成してペーストします3。そのうえで [フィルター] メニュー→[シャープ]→[シャープ（強）] を適用して、写真の粒子を粗くしておきます。

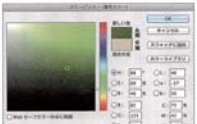
03 写真を色つきのモノトーン画像に変換したいと思います。いくつか方法がありますが、そのうちのふたつの方法を紹介します。

ひとつめの方法は、画像をダブルトーン化する方法です。画像を選択し、[イメージ] メニュー→[モード]→[グレースケール] と選んでから1、さらに改ひ [イメージ] メニューの→[モード]→[ダブルトーン] と選択2、色味に緑系の色を指定します3。単色のカラー画像にします4。この方法は、元画像のカラー情報を捨てることになってしまいますが、そのぶん画像が軽くなるため、処理能力の低いPCでも扱いやすくなるというメリットがあります。



04 もうひとつは色調補正の[白黒]の機能を使う方法です。

[イメージ] メニュー→[色調補正]→[白黒] で [白黒] を選んで利用しますが、調整レイヤーとして利用することもできます。[白黒] のウィンドウで [着色] のチェックボックスにチェックを入れて1色味を選択すると2、色つきのモノトーン画像ができあがります。パラメーターを調整することで白黒の調子も調整可能です。調整レイヤーを使えば、あとから色味を変更することも容易です。



05 できあがった画像は、[イメージ] メニュー→[色調補正]→[トーンカーブ] などを使って、コントラストや明るさを調整します。

なお、同様の手法でその他の画像をもモノトーン化しました1 2 3 4。

06 レイアウト上に配置していきます。

画像は [編集] メニュー→[変形] を使って、大きさや角度を調整しています。また、[描画モード] は [乗算] に設定しています1 2 3、その他の飾りも配置して完成です4。

FIN

51

ラップ効果や エンボス効果で 立体的な表現に

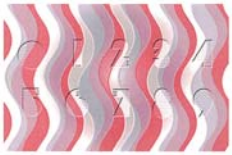
缶バッジのようなポイントを使った
ポスターを作ります。素材感をプラスすれば、
デザインのワンポイントとして効果的です。

APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5
CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

立体的な表現

ラップ効果やエンボス効果を使いこなすと、立体的な表現が可能です。今回の缶バッジのような質感をポイントに使えばおもしろい印象をプラスできます。また、エンボス効果を使うとひと味違った印象を加えることもできます。ちょっとしたあしらいとして、覚えておくと便利に使えるでしょう。



01 Photoshop CS5で作成していきます。

カモフラージュ柄を用意します（迷彩柄はまずまず素材サイトでダウンロードできます。http://blog.sponge.jp/mix.co.jp/）。[フィルター]→[ノイズ]→[ノイズを加える]で、荒れたような効果をつけておきます 1。

02 Illustratorで缶バッジを作りましょう。

Illustratorで缶バッジ風のアウトラインを作成し、[ファイル] メニュー→[データ書き出し] でフォーマットを [Photoshop (PSD)] とします 2。

03 マスクをかけ、切り抜きます。

缶バッジ風の画像レイヤーの上に、迷彩レイヤーを配置し、[レイヤー] メニュー→[クリッピングマスクを作成] を選択します。別名保存で、EPS形式にして、新規ファイルに貼りつけると、マスク部分だけが配置されます。それぞれのパッジをひとつずつ選択し、[イメージ] メニュー→[色調補正]→[色相・彩度] などで色合いを変更しておきます 3 4 5 6。テキストも入力します 7。

04 質感をプラスします。

[フィルター] メニュー→[アーティスティック]→[ラップ] で表面をツルツルにしましょう。明は明度差がはっきりしているので、効果的なエンボス処理が行えます。リアルに柄が見えるように調整しましょう 1 2 3 4 5 6。

05 文字や背景効果と合わせます。

[文字ツール] で文字を作成し、[レイヤー] メニュー→[ラスタライズ]→[テキスト] にします。[レイヤー] メニュー→[レイヤースタイル]→[シャドウ（内側）] を設定します 1 2。[楕円形選択ツール] で丸を描いたら、右クリック（⌘）クリックで、[境界線を描く] を選択、[幅] を任意のサイズにします。

one point

ポスターに仕上げる際には、あまり細部にこだわりすぎると他の部分が目立たなくなります。ほどほどにしてメリハリをつけましょう。

06 もうひとつ、立体感を出した例です。

Illustratorの [パスツール] で表線を描き、[効果] メニュー→[パスの変形]→[ジグザグ] を選びます。ダイアログで [滑らかに] を選択します。背景、表線したい色やサイズを変更して波形のビジュアルを作ります。[ファイル] メニュー→[書き出し] でPhotoshop形式にしてから、Photoshopで開きます。[フィルター] メニュー→[アーティスティック]→[ラップ] で表面をツルツルに。その後、[フィルタ] メニュー→[テクスチャ]→[テクスチャライザー] から [カンバス] を選び、ブツブツとしたディテールのエンボス処理にします 1 2 3 4。

07 文字にマスクを掛けて、効果をプラスします。

[文字ツール] で作成した文字をラスタライズ化し、背景レイヤーで文字の形を選択してから、[レイヤー] パネル下部の [レイヤーマスクを作成] ボタンで、レイヤーマスクを作ります。作成した文字にも [フィルター] メニュー→[テクスチャ]→[テクスチャライザー] で [カンバス] を選び、ブツブツとしたディテールエンボスを掛けます。[レイヤー] パネルオプションで、[レイヤー効果] の [ベベルとエンボス]、[光彩]、[シャドウ] にチェックします 1。バッジとなじんで、まるでバッジ細工呼し出して文字が浮き上がったように仕上がります 2。

FIN.

地紋と花びらを利用したポスター 52

Illustratorで地紋や花を作りましょう。

APPLICATION: Illustrator CS3 Photoshop CS3
CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

地紋による表現

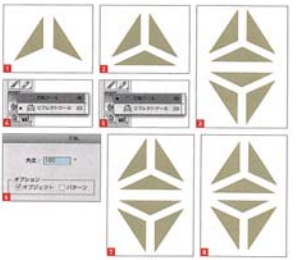
着物に見られるような「地紋」のパターンは、日本古来の美しいデザインです。同じ模様が繰り返し使われたリズミカルな表現には、人は無意識に心地よさを感じるので、端正で上品なイメージに仕上げることができます。こうした地紋のようなパターンはパーツ作りがミソです。シンプルな図形をいくつも繰り返し、幾何学な模様を作りましょう。

one point

[多角形ツール] で正三角形を作成してから ([多角形ツール] でドラッグしながら [↑] キーを押す)、三角形の中心から各頂点へパスを引き、[パスファインダー] パネルで [分割] する、という方法もあります。

01 Illustratorで着物柄のような地紋を作っていきます。

[ペンツール] で三角形を作成します。[ツールボックス] で [ダイレクトセレクトツール] をダブルクリックし、[ダイアログボックスで [水平] [30°] [コピー] を実行します。次に、[オブジェクト] メニュー→[回転] で [120°] 回転させます。さらに [ツールボックス] で下半分を作成します。三角形の大きさ、バランスを調整しましょう。



02 パーツを複製してパターンを作っていきましょう。

パーツをコピーして右方向へペーストします。[⌘] [D] + [D] で繰り返し複製できます。下方向に同様にしてパターンを作りましょう。

03 Photoshopで風合いをつけていきます。

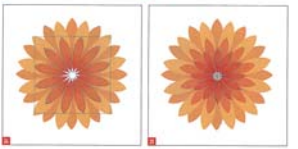
Illustratorで [ファイル] メニュー→[書き出し] で、PSD画像にします。ダイアログでは、[カラーモード：RGB] にし、[ラスタライズ、画像の統合] にチェックします。Photoshopで書き出した画像を開き、全体に [効果] メニュー→[アーティスティック]→[ラップ] 効果で素材の形の効果のような効果を施して、地紋ができあがります。

04 ここからは、花を作っていきましょう。

Illustratorの [ペンツール] で、一枚の花びらのオブジェクトを描きます。花びらが選択された状態で、[Option] [Alt] キーを押し続けながら、[回転ツール] をクリック、開いた回転軸を花の中心部に移動させ、ダイアログで [30°] にします。[⌘] [D] + [R] で、同様の変形をして一輪の花にします。

05 同様の作業で、花を重ねていきます。

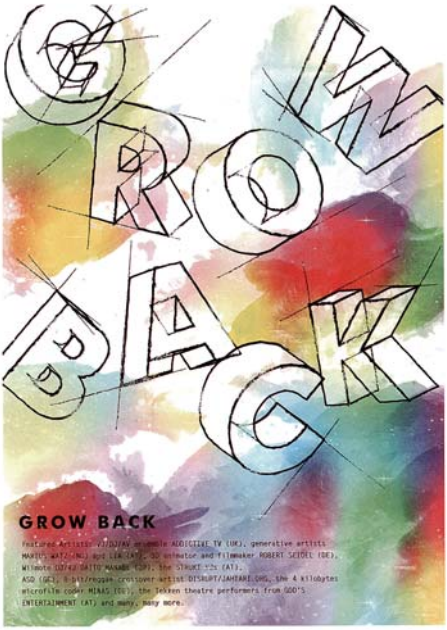
角度を変えたり、縦小拡大を繰り返すと、動きが出て立体感が増します。[効果] メニュー→[スタイライズ]→[ドロップシャドウ] で影をプレッシャーました。



06 華やかに仕上げた完成レイアウトです。カラー変更やレイアウト変更でイメージは様変わりします。

上に載せたオブジェクトが見えつつに地紋色を抑えておくと、立体物のデイジンが引き立ちます。

FIN



3D効果を使った文字デザイン

3D効果に、手描きのようなニュアンスをプラスした文字デザインを作ります。

APPLICATION: Illustrator CS5/5.5 Photoshop CS5/5.5 CREATOR: Masaya Eiraku

53

01 元の書体を選び、アウトライン化します。

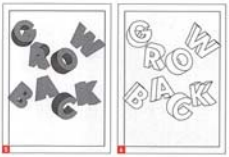
Illustratorを開きます。元となる書体は効果がわかりやすい、太めのもの(ウエイトの大きいもの)を選びます 1。ここではフリーフォントの[Aharoni Bold]を使っています。書体を決めたらアウトライン化します。選択状態にして[書式]メニュー→[アウトラインを作成]を選択してください 2。

02 アウトライン化した文字を3Dの図形にします。

アウトライン化した文字を1ひとつ選択し、[効果]メニュー→[3D]→[押し出し・ベベル]を選択して[3D押し出し・ベベルオプション]の画面を表示させます 1。[位置]のメニューで[自由回転]を選んだら、角度を変えながら文字を3D化します 2(ウィンドウはバージョンによっても異なります)。なお、[塗り]の色を[K:50]、[線]の色を[K:100]に設定してから作業を行うと制作中の3D図形が見やすくなります。同じ要領ですべての文字を3D化します。

03 立体の線画にしていきます。

次に、3D化した文字をベクトル化するために、選択した状態で[オブジェクト]メニュー→[透明部分を分割・統合]を選択します 1。こうすることで余分なパスが削除されます。ここでは[塗り]の色を[白]、[線]の色を[黒]に設定して、立体の線画にすることにしました 2。



04 線に手描き感を加えていきます。

文字を選択した状態にして、[効果]メニュー→[パスの変形]→[ラフ]の機能を利用して 1、線をランダムにくねらせます 2。[ラフ]の設定は 3 を参考に、いろいろと試してみてください。効果は他の文字にも適用します。

05 さらに、質感を加えていきます。

まずはすべての文字を選択してコピーしたら、複製した文字に[ブラシ [効果]]を適用し元の文字上に重ねます。完成したものは、文字のオブジェクトふたつ(ラフを適用した文字とそれにブラシを適用した文字の2種)が重なったものです 1。なお、このとき[塗り]はなしにしています 1 2。同じアートブラシを設定したブラシで装飾を加えていきます。ここでは文字のパースに沿ってラインを引いています 3 4。

06 できあがったらPhotoshopで仕上げを行います。

[ファイル]メニュー→[書き出し]を選択し、PSD形式で書き出したら、Photoshopで開きます。[レイヤー]メニューから[レイヤーマスク]→[すべての領域を表示]を選択してマスクを作成します 1。[レイヤー]パネルで作成したマスクを選択したら、黒色のブラシでなぞり、ところどころかすれた感じを出していきます 2。ブラシには 3 のようなブラシを選ぶといいでしょう。背景を加えて完成です 4。

FIN

54

ボタンやタグを使用した楽しいデザイン

ボタンを使ったフレームでショップカードを作りましょう。
3D回転を使用したボタン作りを覚えておけば、
役立つシーンが多くあります。

APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5
CREATOR: Junko Kumari (Sasquatch Design Inc.)

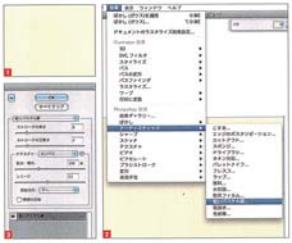
基本ルール

3Dによる表現

[3D] 効果を使うと、簡単な3D画像を作ることができ、いろんなディテール作りに活用できます。断面をパスで描いてから、[効果] メニュー→[3D]→[回転体] を選び、ダイアログで詳細を設定していきます。意外にあまり使われていないようですが、デザインのアクセントとして便利な効果ですので、さまざまなシーンで活用してみてください。

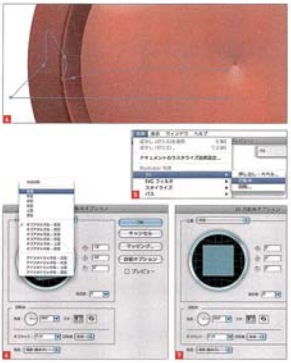
01 まず背景を作り、質感をプラスしていきます。

Illustratorの [長方形ツール] で、ポストカードサイズの任意の色の長方形を描きます。[効果] メニュー→[アーティスティック]→[絵いパステル画] で質感のある背景にします 1 2 3。



02 ボタンを作っていきましょう。ボタンらしく、円の外側に当たる部分に起伏を持たせると、ボタンがぷっくりとした立体感に仕上がります。

[パスツール] で、ボタンの半断面のパスを描きます 1。[効果] メニュー→[3D回転体] を選び、ダイアログで [角度：360°]、[回転軸：右端] にするとボタンを真上から見たようなオブジェクトができます。ダイアログ内で、[断面：強度：[明るい]] を指定すると、プラスチックっぽい質感が高まります 2 3 4。



one point

[3D回転体] を使うとさまざまなオブジェクトが作成可能です。例えば、チョコレートが溶けた水面や、目玉焼きとお皿も作れます。お皿と黄身は3D回転体で作成しました（白身部分は [ペンツール] でフリーな線を描いています）。

03 ここからは、ボタンを糸でつないだフレームを作っていきましょう。

フレームのベースとなるラインを、[パスツール] で作成します。ボタンに穴を通したようになるよう、[線] パネルから [線端：丸型先端] にします。[効果] メニュー→[アーティスティック]→[こする] で状態を整らして、素材感を出します 1 2。

one point

ヒモらしく見せるコツは、ヒモの太さに対して編み目の大きさを細やかに合わせていくことです。細いヒモなら小さな数値で、ヒモらしく見えるように設定しましょう。

04 フレーム糸とボタンのオブジェクトに、ドロップシャドウをつけて完成です。

フレームの糸とボタンに、[効果] メニュー→[スタイライズ]→[ドロップシャドウ] を実行します。語名やメッセージを入れてできあがりです 1。

one point

装飾をたくさんプラスしたときは、フォントはシンプルなほうがデザインが活きます。

05 ここからは、ボタンと糸のフレームを応用してショップカードを作ってみましょう。

紙面の全面に布の画像を敷きます。これは工程01と同様にIllustratorで作成できます 1。

回転体を用いた立体イラストによるデザイン

回転体とフィルター効果を使用したビジュアルを作りましょう。ソフトクリームと背景のキルティング素材がポイントです。

APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5
CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

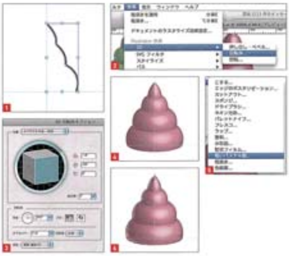
立体イラストによる表現

Illustratorの［3D回転体］で立体的なイラストを作れます。ただしそのままではデジタル感が強いので、フィルター効果（粗描きパステル画）でアナログ感を出すとよいでしょう。また、キルティング素材のようなディテールが作れると便利に使えます。これを応用してサテン地やコットンなど、自在に布のテクスチャを作ってみましょう。

01 ソフトクリームの上部を作っていきます。

Illustrator CS5の［パスツール］で、まずアイスクリームの半径分の断面図を作成します。オブジェクトが回転したときにソフトクリームに見えることが重要ですので、じっくりとこの断面となる線を考えましょう。［塗り］は［なし］、［線］にはソフトクリームらしい色をつけておきます 1 2 3 4 5。［効果］メニュー→［3D］→［回転体］を選びます。図を参考に数値を設定してください 6。

55



02 少しデジタル感が強いので、フィルター効果をかけます。

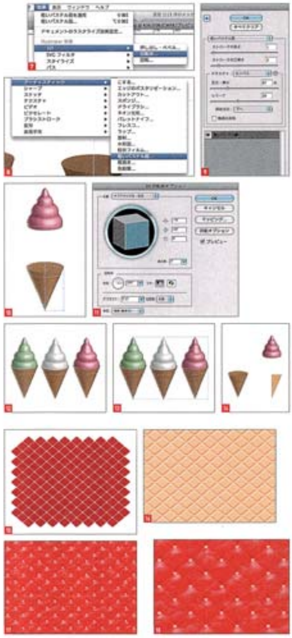
［効果］→［アーティスティック］→［粗いパステル画］で、手描き感の残るアナログタッチにします。同様に、コーンの部分も作成し、三色のソフトクリームを作成しました 7 8 9 10 11 12 13 14。

03 ここからはキルトのようなぷっくりとした質感の背景地を作っていきましょう。サテンの布のようなパッチワークの縫い目に、ハイライトの光が効いた演出です。

Illustratorで［長方形ツール］をダブルクリックし、［20mm］の赤の正方形を作成します。1mmの溝を作成したいので、［オブジェクト］メニュー→［変形］→［移動］で［水平方向：21mm］、［コピー］を選択します。⌘（Ctrl）+D で繰り返し処理ができます。縦に30回、横に50回で、パターンを敷き詰めます。この1mmの溝は縫い目になります。［オブジェクト］メニュー→［変形］→［回転］で45度に回転させ、［変形］→［拡大・縮小］の［垂直方向］を［85%］にして平体にします。ベタ面の角を［効果］メニュー→［スタイライズ］から［角を丸く］でエッジの丸みを3mm設定します。キルトの縫い目のようなラインを［パスツール］で作ります。縫い目のような等間隔のイメージなので、あまり線分を長くしないことが大切です。［線］ウィンドウで線分［破線］［丸型先端］にしIllustratorの作業は完了です 15 16 17。

04 ［ファイル］メニュー→［書き出し］で、PSD形式に保存します。

書き出し時には［レイヤーを保持］にチェックしてください 18。



05 書き出したPSDデータでキルトの元を読み込みます。

読み込んだキルトレイヤーの背面に、新規レイヤーを作成配置し、同じ赤（金赤 M100 Y100）で塗りつぶします。これはパターンの隙間のバックから覗く、白色を見えなくするためです 20。

06 縫い目のレイヤーに立体感をつけます。

縫い目だけの線分レイヤーを選択し、［レイヤー］→［レイヤースタイル］→［ベベルとエンボス］を設定します 21。

07 ハイライトのマスクを作っていきます。

出来上がったイメージを別名で保存にて保存し、改めて読み込みます。レイヤーは統合しておきましょう。ハイライトマスクを作るため、読み込まれたイメージに対して［イメージ］メニュー→［色調補正］→［彩度を下げる］にて、いったんモノクロ画像にします 22。

08 ［イメージ］メニュー→［色調補正］→［露光量］を選択し露光量とガンマを設定します。

できあがったハイライトマスクをコピーアンドペーストでキルトにペーストします 23。

09 ハイライトマスクをレイヤーパネルの［描画モード：スクリーン］で合成します。

これによりキルトのハイライトがより強調され、サテンの布の縫い目に当たる、窪みの風合いになります。自然に光るようにするとリアルになります 24。

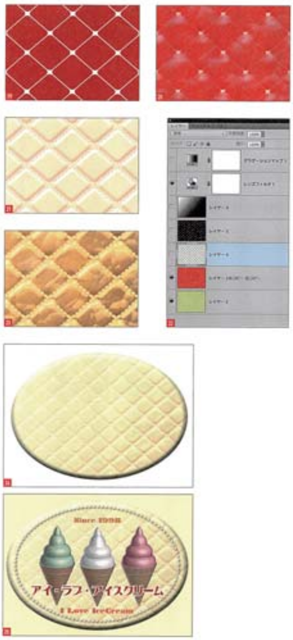
10 最終的に色調整を行うためのレイヤーを作成します。

［イメージ］メニュー→［色調補正］→［レンズフィルター］を選択し、数値を設定します。

11 Illustrator上でレイアウトして完成です。

ディテールの風合いを邪魔しないように、フォントは透明化を掛けておきましょう 24 25。

FIN



56

高級感のある和風のポスター

和風のデザインを作るときは、筆のタッチを生かしたり、「地紋」「花びら」「ハンコ」を利用するとそれらしくまとまります。

APPLICATION: Illustrator CS5 Photoshop CS5
CREATOR: Junko Komori (Sasquatch Design Inc.)

基本ルール

グラデーションで作るゴールドと小花

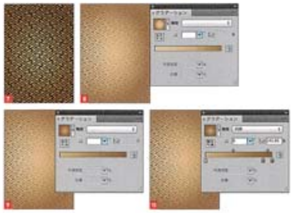
和風のイメージは一歩間違うとデザインが淋しくなる傾向がありますが、金屏風のようなイメージや、小花や刺子をプラスすれば高級感と華やかさを感じさせることができます。金をイメージさせるにはグラデーションが大事ですが、CMYKにはゴールドという色の指定はありません。ゴールドに見えるかどうかはグラデーションで、色ベタの面をどう光らせるかが重要です。同様に小花の風合いをリアルに出したいときも、自然な輝きに見えるグラデーションにすることを心がけましょう。

01 Illustratorでゴールドの下地を作っていきます。

Illustratorを開き、ベタ面にグラデーションを使って金屏風をイメージした背面を作成します。グラデーションを[円形グラデーション]に指定して、ゴールドの色らしく中央部が光るように指定しましょう 1 2 3 4 5 6。

02 その上に地紋を載せます。

地紋は、「粋屋 日本の伝統文様と伝統色」http://www.ikiya.jp/index.html の「紗綾形・卍崩し文様」を使っています。文様を選択して［編集］→［パターン設定］→［作成］を押すと、［スウォッチ］パネルに登録されます。登録された文様を、［スウォッチ］パネルからドラッグアンドドロップして使います。マスキングした地紋の中にも背面同様ゴールドのグラデーションを入れて、背面とはグラデーションの領域を反転すると効果が出やすいでしょう。ゴールドの光る領域の微妙な違いでリアル感が増すので、じっくりとグラデーション領域を決めましょう 7 8 9 10。

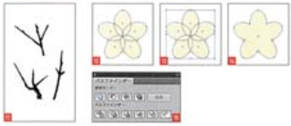


03 次に小花を作っていきましょう。

まず花を飾る小枝からです。木の画像を見ながら枝振りを描いていきます。枝振りが自然になるには先細り感をうまく制作することです 11。

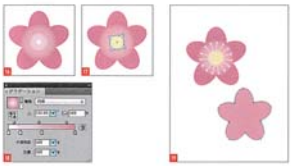
04 次に5枚の花びらを作成します。

［楕円形ツール］で楕円形を描き、［リフレクト回転ツール］を使用して、花びらのどこを回転させるか、中心点を決めてから一枚の花びらを360度の5等分の回転で一周させます。この場合は花びらの下部ポインターを中心点に決めています。5枚が回転できたら［パスファインダー］パネルで［合体］させます 12 13 14 15。



05 色をつけましょう。

合体した花の中に、［円形グラデーション］を反映させます。花弁を置くので花の中心部を淡く仕上げるのがコツです。花弁も花びらの作成と同じく、［リフレクト回転ツール］で作成します。花弁が花びらに対して大きくならないように注意してください 16 17 18 19。



06 枝の中にも［グラデーションツール］で色づけして、小花を飾っていきましょう。

実際の枝振りを見ながら、枝先に花を飾り、違和感のないようにレイアウトします。花は枝につけすぎないよう、メリハリを効かせて咲かせていきましょう 20 21 22。

07 ここからは書道風の文字を作成します。

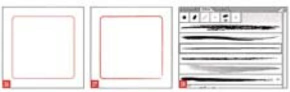
Illustratorで作成します。書道風の文字はカリグラフィといい、「ブラシ」の中にカリグラフィ効果があります。フォントのアウトラインに線分を加えて、その線分にブラシ効果を足せば、まるで書道で書いたかのような効果が得られます。線分の太さは、レイアウトする大きさにもよりますが、あまりに太くしないほうが筆足が自然で繊細な文字デザインができます 23 24 25。

one point

カリグラフ化するフォントは、明朝体を選ぶと、書道らしく見えます。

08 ハンコを作っていきましょう。

Illustratorの［角丸長方形ツール］の枠を作成し、［ブラシ］パネルから細めのブラシを指定します 26 27 28。



09 文字を入力します。

［文字ツール］で文字を入力したら、Photoshopにもっていき、［フィルター］メニュー→［スタンプ］で浅彫りしたハンコの雰囲気を出します。ハンコ風の文字はくっつき気味に組むと、ハンコのにじんだような風合いを出すことができます 29 30 31 32。

10 背景に重ねて完成です。

背景ポスターに重ね、［レイヤー］パネルで［描画モード：乗算］で重ね、レイアウトを調整したらできあがりです 33。

FIN